

むらやま若者みらい創造モデル事業
報 告 書

令和6年2月
山形県村山総合支庁

目次

I	事業の概要	
1	事業の目的	1
2	むらやま若者みらい創造モデル事業の構成	1
II	むらやま若者みらい創造モデル事業に係る調査結果	
1	①地域コミュニティ現状調査報告書	
	(1) 調査の概要	
	ア 調査の目的	2
	イ 調査期間	2
	ウ 調査対象	2
	エ 調査方法	2
	オ 調査内容	2
	カ 回収結果	2
	キ 注意事項	2
	(2) 調査結果	
	ア 自分が住む地域(地区)について	3
	(ア) 「地域活動への参加状況」について	3
	(イ) 地域活動を行う上での困りごとについて	4
	イ 自分が住む地域の「地域コミュニティ」について	6
	(ア) 地域内交流について	6
	(イ) 防災・防犯について	8
	(ウ) 地域文化について	10
	(エ) 医療・福祉について	12
	(オ) 生活環境について	14
	(カ) 行政・情報について	16
	ウ 「関係人口」と地域コミュニティについて	18
	(ア) 関係人口が地域コミュニティに参画することについて	18
	(イ) 関係人口が地域で活動する際の心配ごとなどについて	20
	(ウ) 関係人口の力によって解決できそうな地域の課題について	22
	(エ) 関係人口に参画してほしい地域活動について	24
	(オ) 地域活動の持続・活発化に寄与する地域外の方の活動内容	26
	エ まとめ	27
2	②地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書	
	(1) 調査の概要	
	ア 調査の目的	28

イ	調査期間	28
ウ	調査対象	28
エ	調査方法	28
オ	調査内容	28
カ	回収結果	28
キ	注意事項	28
(2)	調査結果	
ア	アンケート回答者の属性	29
(ア)	山形県との関わり	29
(イ)	年代	29
(ウ)	性別	29
イ	「山形の地域と関わることの意識」について	30
(ア)	山形県との関わりについて	30
(イ)	活動内容について	31
(ウ)	活動手法について	32
(エ)	活動する上で大事なこと	33
(オ)	活動する上での不安・心配	34
ウ	まとめ	35
3	③交流イベント実施報告書	
(1)	交流イベントの概要	
ア	交流イベントの目的	36
イ	申込方法等	36
(2)	交流イベント実施結果	
ア	1回目交流イベント概要	37
イ	2回目交流イベント概要	45
(3)	まとめ	53
Ⅲ	考察	
1	地域コミュニティの現状	54
2	関係人口の現状	56
3	地域コミュニティと関係人口のマッチング	58
Ⅳ	総括	62
Ⅴ	参考資料	
1	地域コミュニティ現状調査アンケート調査票	63
2	地域コミュニティ現状調査対象者	74
3	地域コミュニティ参画に係る意識調査アンケート調査票	76

I 事業の概要

1 事業の目的

近年、人口減少や少子高齢化の進展は著しく、人口減少対策や活力ある地域づくりに関連した市町への支援が村山総合支庁における喫緊の課題となっている。

そこで、アフターコロナにおける地域コミュニティの現状・課題の把握や、関係人口の参画による地域コミュニティ機能の維持・協働の可能性を探るため、「むらやま若者みらい創造モデル事業」を実施した。

※本事業における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指す。

2 むらやま若者みらい創造モデル事業の構成

① 地域コミュニティ現状調査

目的：地域コミュニティが抱える課題や関係人口に対する意識の把握

調査期間：令和5年9月25日～10月16日

調査内容：・自分が住む地域（地区）について
・自分が住む地域の「地域コミュニティ」について
・「関係人口」と地域コミュニティについて 等

② 地域コミュニティ参画に係る意識調査

目的：関係人口の意識及び地域コミュニティ機能の維持・協働に係る可能性の把握

調査期間：令和5年11月30日～令和6年1月14日

調査内容：・地域コミュニティへ参加することの意識について
・地域コミュニティへの関わり方について
・地域コミュニティへ関わる際の課題等について 等

③ 地域コミュニティ及び関係人口による交流イベント

目的：地域コミュニティ活動に興味のある首都圏在住の若者等による交流イベントを開催し、「地域コミュニティ参画に係る意識調査」だけでは拾いきれない関係人口の細かな意見を聴取

実施日等：1回目…令和5年11月25日

〔ねらい〕関係人口が地域の困りごとに対する解決の糸口を見つけること

2回目…令和6年1月20日

〔ねらい〕関係人口に主体性を持ってもらうこと

※詳細は、各調査・交流イベント部分を参照

Ⅱ むらやま若者みらい創造モデル事業 に係る調査結果

1 1 地域コミュニティ現状調査報告書

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

近年、人口減少や少子高齢化の進展は著しく、人口減少対策や活力ある地域づくりに関連した市町への支援が村山総合支庁における喫緊の課題となっている。

そこで、アフターコロナにおける地域コミュニティの現状・課題の把握や、関係人口の参画による地域コミュニティ機能の維持・協働の可能性を探るため、地域コミュニティが抱える課題や関係人口に対する意識の把握を目的に、以下の調査を実施した。

※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指す。

イ 調査期間

令和5年9月25日～10月16日

ウ 調査対象

山形県東南村山管内市町における地域コミュニティ組織（自治会、町内会等）の代表者

エ 調査方法

山形県東南村山管内市町における206の地域コミュニティ組織（複数の自治会等を統括する組織を含む）の代表者に対し、調査受託者（村山総合支庁から調査業務の委託を受けた株式会社山形アドバイザー）からの郵送により調査票を配布・回収

オ 調査内容

- ・ 自分が住む地域（地区）について
- ・ 自分が住む地域の「地域コミュニティ」について
- ・ 「関係人口」と地域コミュニティについて
- ・ まとめ

※詳細については「V 参考資料1」の調査票を参照。

カ 回収結果

- ・ 回収数（率）： 148件(71.8%)
- ・ 無効数： 0件
- ・ 有効数（率）： 148件(71.8%)

キ 注意事項

- 図表の中の「回答数」は、設問に対する回答者総数である。
- 百分比は回答者総数全体（該当設問においては該当者数）に占める設問の選択者数の比率として算出している。なお、図表では小数点第2位をそれぞれ四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答が可能な設問の百分比の合計は、100%を超えることがある。

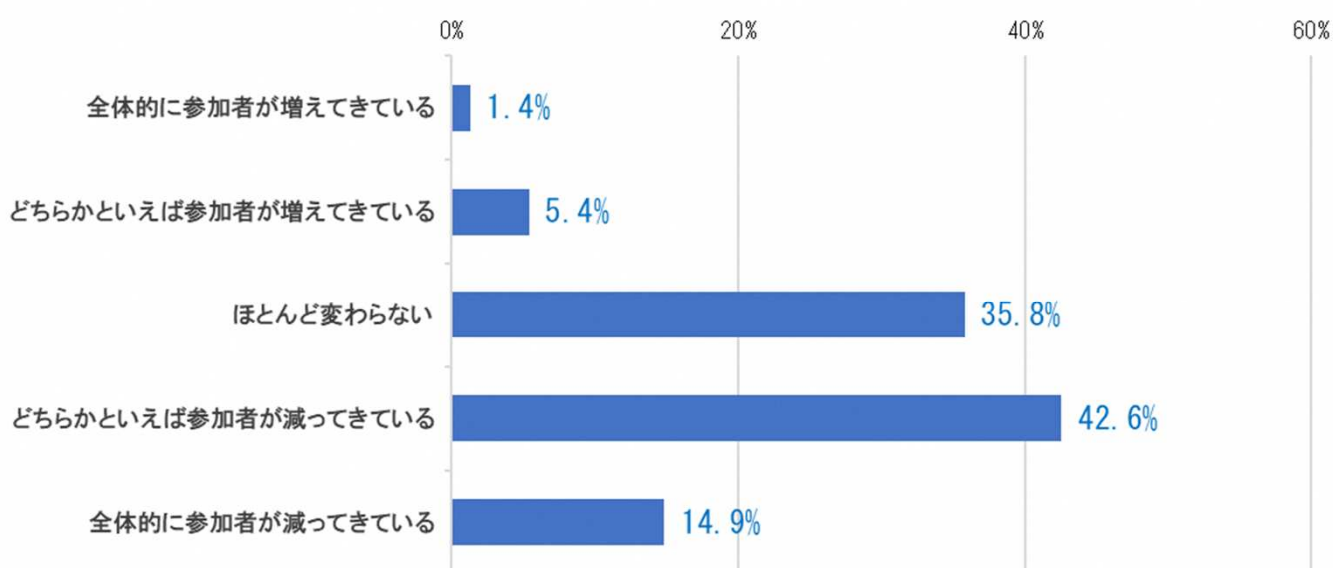
(2) 調査結果

ア 自分が住む地域（地区）について

(ア) 「地域活動への参加状況」について

問1：あなたの地域の「地域活動への参加状況」はいかがでしょう？（○は1つ）

(回答数=148)



「地域活動への参加状況」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「どちらかといえば参加者が減ってきている」……42.6%
- 2位：「ほとんど変わらない」……35.8%
- 3位：「全体的に参加者が減ってきている」……14.9%



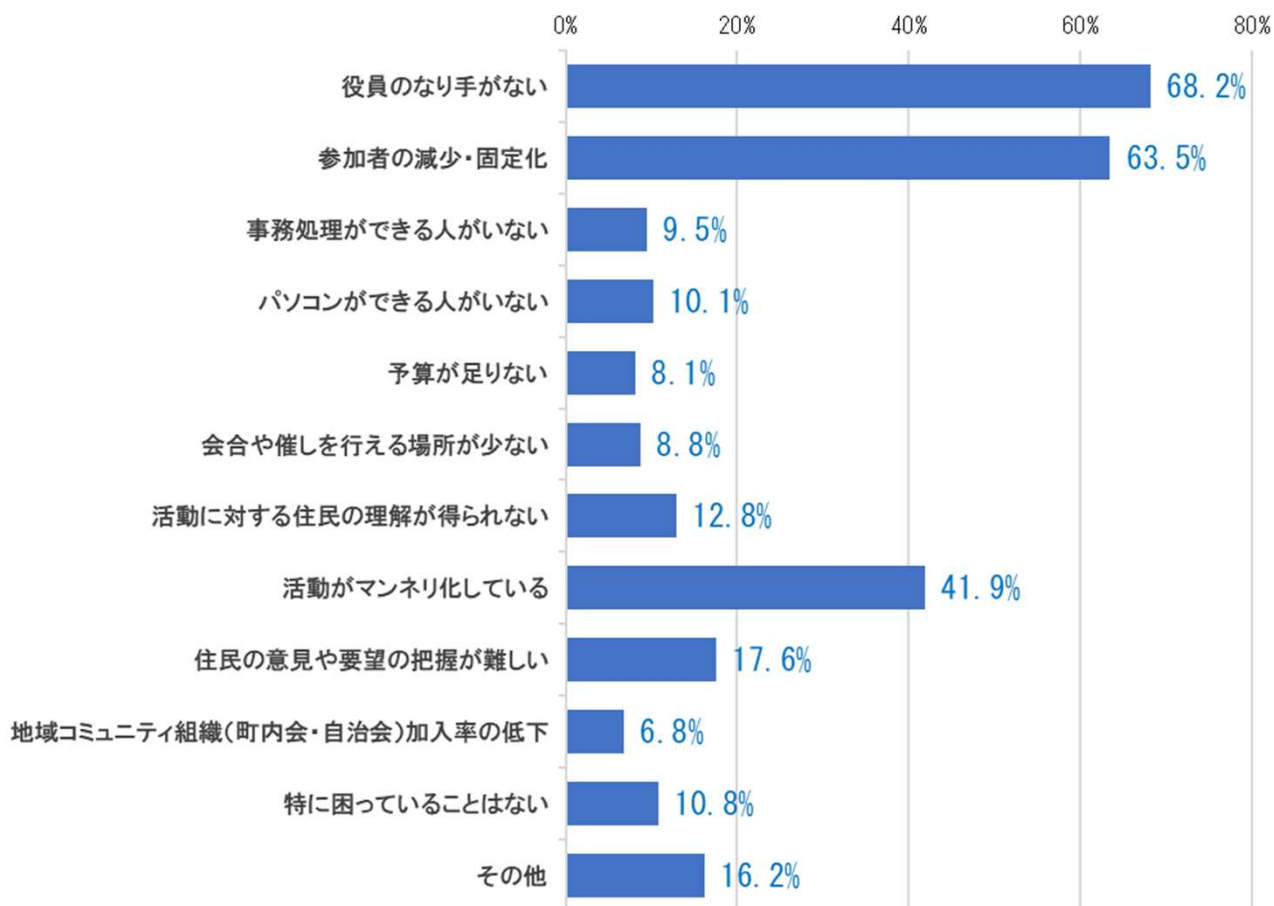
ポイント

- 地域活動への参加者が増えている地域は全体の1割弱であるのに対し、約6割の地域では参加者が減ってきている。

(イ) 地域活動を行う上での困りごとについて

問2：地域活動を行う上で、お困りになっていることはありますか。(○はいくつでも)

(回答数=148)



「地域活動を行う上での困りごと」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「役員のなり手がいない」……………68.2%
- 2位：「参加者の減少・固定化」……………63.5%
- 3位：「活動がマンネリ化している」……………41.9%
- 4位：「住民の意見や要望の把握が難しい」……………17.6%
- 5位：「その他」……………16.2%

「その他」では、「高齢化により参加者が減っている」や「新型コロナウイルス感染症の影響で事業ができなかった」などが挙げられた。

選択肢以外の困りごとの例

- ・自治会等の役員も参加者も高齢化し、役員のなり手もないし、参加者も減少
- ・無関心層が増えている（特に感じるのは若年層）
- ・新型コロナウイルスの影響で事業がストップしたり、何事も慎重な対応にならざるを得ない
- ・輪番制で役員が交代するので役員業務の把握が難しいし、無報酬なのに業務自体がそもそも多いが、共助ということで役員に対して自治体から依頼される業務も多くなってきている
- ・役員の年齢が40～50代であり、本業も多忙であることに加え、役員の職務も多忙すぎる
- ・新居住者、団地居住者の理解がなかなか得られにくい



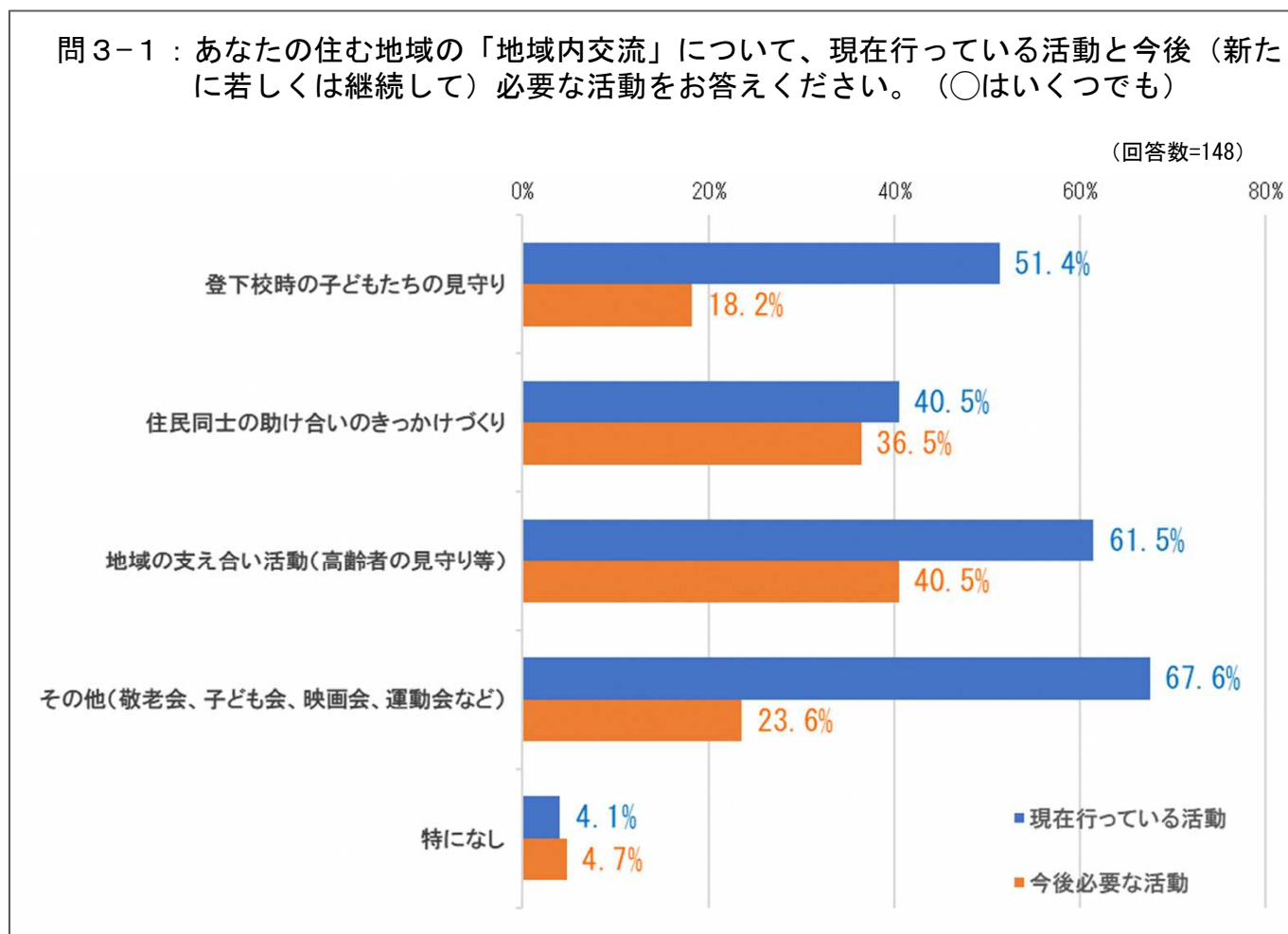
ポイント

- 人口減少や高齢化の進展により、役員の担い手不足や参加者の減少・固定化、活動内容のマンネリ化を困りごとだと感じている人の割合が多い。
- また、地域活動への関心がない住民の存在、本業と地域活動の両立の困難性や複数の役職兼務による多忙、短い任期での役員活動なども、地域活動を行うにあたっての困りごとと感じている。

イ 自分が住む地域の「地域コミュニティ」について

(ア) 地域内交流について

問3-1：あなたの住む地域の「地域内交流」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）



「地域内交流」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「その他（敬老会、子ども会、映画会、運動会など）」……………67.6%
- 2位：「地域の支え合い活動（高齢者の見守り等）」……………61.5%
- 3位：「登下校時の子どもたちの見守り」……………51.4%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域の支え合い活動（高齢者の見守り等）」……………40.5%
- 2位：「住民同士の助け合いのきっかけづくり」……………36.5%
- 3位：「その他（敬老会、子ども会、映画会、運動会など）」……………23.6%

問3-1に寄せられた主な意見（問3-2）

- ・人口減少、少子高齢化で10年後、20年後の地域の将来像が見えないし、具体的にどのように対応していけばよいのか分からない
- ・一人暮らしの高齢者が増え、把握・見守りが重要と思われるので、隣組等で支え合うような体制をつくることできれば…
- ・役員の高齢化やコロナ禍の影響により敬老会が廃止になり、高齢者の楽しみが消えてとても残念
- ・高齢者も若者も子どもも集えるような“地域食堂”のようなものがあると良いと感じる
- ・世帯数が少なく、どうしても活動が制限されるため、近隣地域と合同の事業をしてコミュニケーションを図っている
- ・様々な年齢層のニーズに合わせた活動を開発していきたい



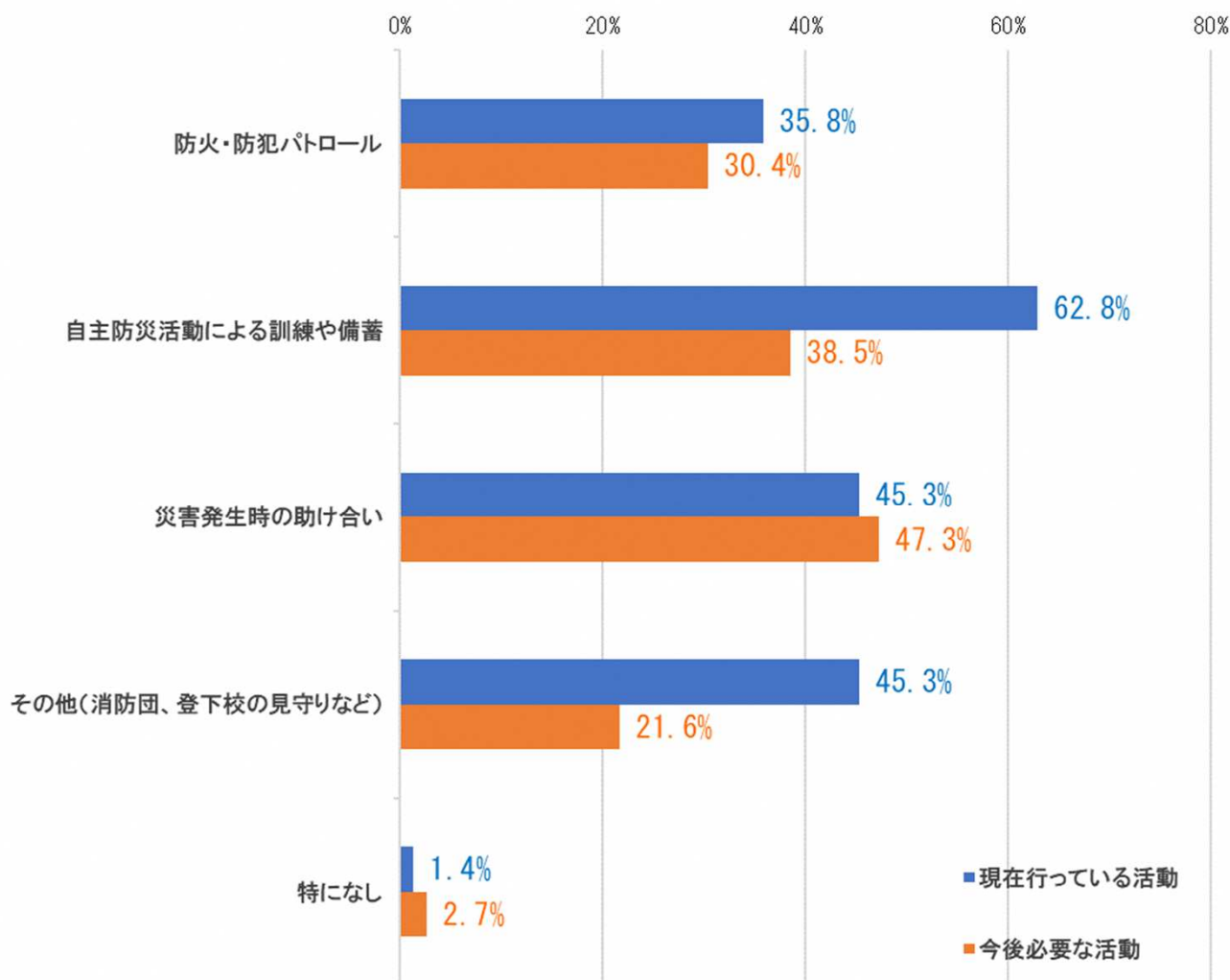
ポイント

- 現在、敬老会・子ども会や高齢者・子どもたちの見守り活動を行っている地域が多いが、少子化や役員の多忙などを背景に、将来的な必要性は低いと感じている人が多い。
- 「住民同士の助け合いのきっかけづくり」については、現在4割程度の地域コミュニティで実施されており、ほぼ同程度の割合の地域コミュニティ代表者がこれからも必要だと感じている。

(イ) 防災・防犯について

問4-1：あなたの住む地域の「防災・防犯」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）

(回答数=148)



「防災・防犯」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「自主防災活動による訓練や備蓄」……………62.8%
- 2位：「災害発生時の助け合い」……………45.3%
- 「その他（消防団、登下校の見守りなど）」……………45.3%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「災害発生時の助け合い」……………47.3%
- 2位：「自主防災活動による訓練や備蓄」……………38.5%
- 3位：「防火・防犯パトロール」……………30.4%

問4-1に寄せられた主な意見（問4-2）

- ・ 幸いなことに大きな災害は発生していないが、万が一の場合に備えて助け合いの方法を考える場・機会をもっと増やすべきではないか
- ・ 自主防災組織役員や消防団員の高齢化、消防団員の不足、防災マニュアルが不備な防災組織が少なくないことなど、多くの課題がある
- ・ 人口減少や高齢化等の影響から消防団員が不足しており、消防団の統合が進んでいるが、守備範囲が広がってしまい、いざという場合に対応できるか心配
- ・ 防災活動従事者の高齢化が進んでおり、また、他活動と兼務している住民が多く、このような状況・条件下で今後若い世代への引継ぎが円滑にできるか懸念される
- ・ 防災訓練や備蓄はどの程度行うことが適切なのか、情報や事例がほしい



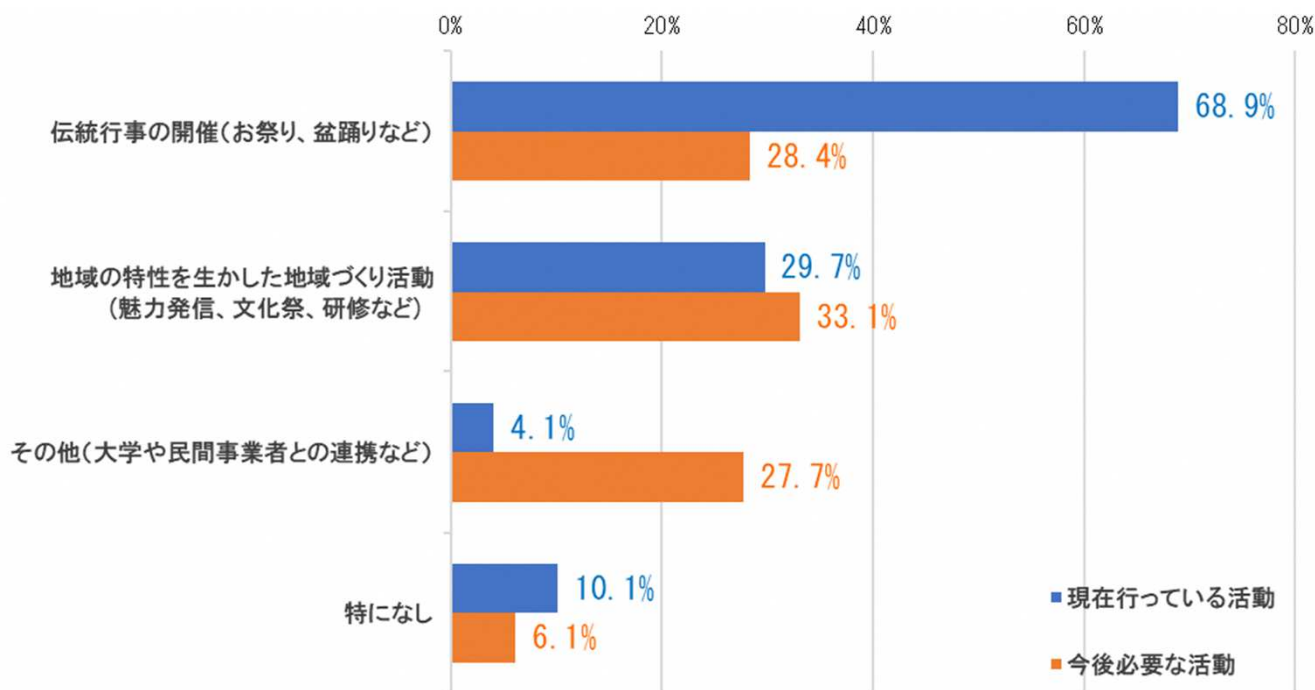
ポイント

- 「災害発生時の助け合い」を今後も継続して必要な活動と認識している人の割合が多い。
- また、現在行われている活動と今後の活動の必要性のギャップが大きいのは、「自主防災活動による訓練や備蓄」や「その他（消防団、登下校の見守りなど）」であり、「高齢化でやりたくてもできない」、「消防団員として活動できる若者がいない」といった意見が寄せられている。

(ウ) 地域文化について

問5-1：あなたの住む地域の「地域文化」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）

(回答数=148)



「地域文化」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「伝統行事の開催（お祭り、盆踊りなど）」……………68.9%
- 2位：「地域の特性を生かした地域づくり活動（魅力発信、文化祭、研修など）」……………29.7%
- 3位：「特になし」……………10.1%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域の特性を生かした地域づくり活動（魅力発信、文化祭、研修など）」……………33.1%
- 2位：「伝統行事の開催（お祭り、盆踊りなど）」……………28.4%
- 3位：「その他（大学や民間事業者との連携など）」……………27.7%

問5-1に寄せられた主な意見（問5-2）

- ・以前は夏と秋に行事や文化祭が行われていたが、高齢化や担い手・参加者不足で現在は実施できていないのが現状であり、地区だけで取組を継続していくことは困難
- ・既存の行事をこなすのが精一杯で、それ以上のことを考える余裕は皆無
- ・多くの地域住民が楽しめる行事とは何か、新しい発想が望まれている
- ・大学生と地域の連携はあるようだが、そうした情報が住民まで聞こえてこない
- ・若者がそもそもいない、いても地域文化に無関心
- ・若年層の地域行事への参加につなげるべく、まずは意見を聞く必要があるのではないか
- ・地域の特性を活かした活動に取り組んでいきたいと考えているし、少子化だからこそ子どもたちに積極的に参加してもらい、後継者・担い手として育成していきたい



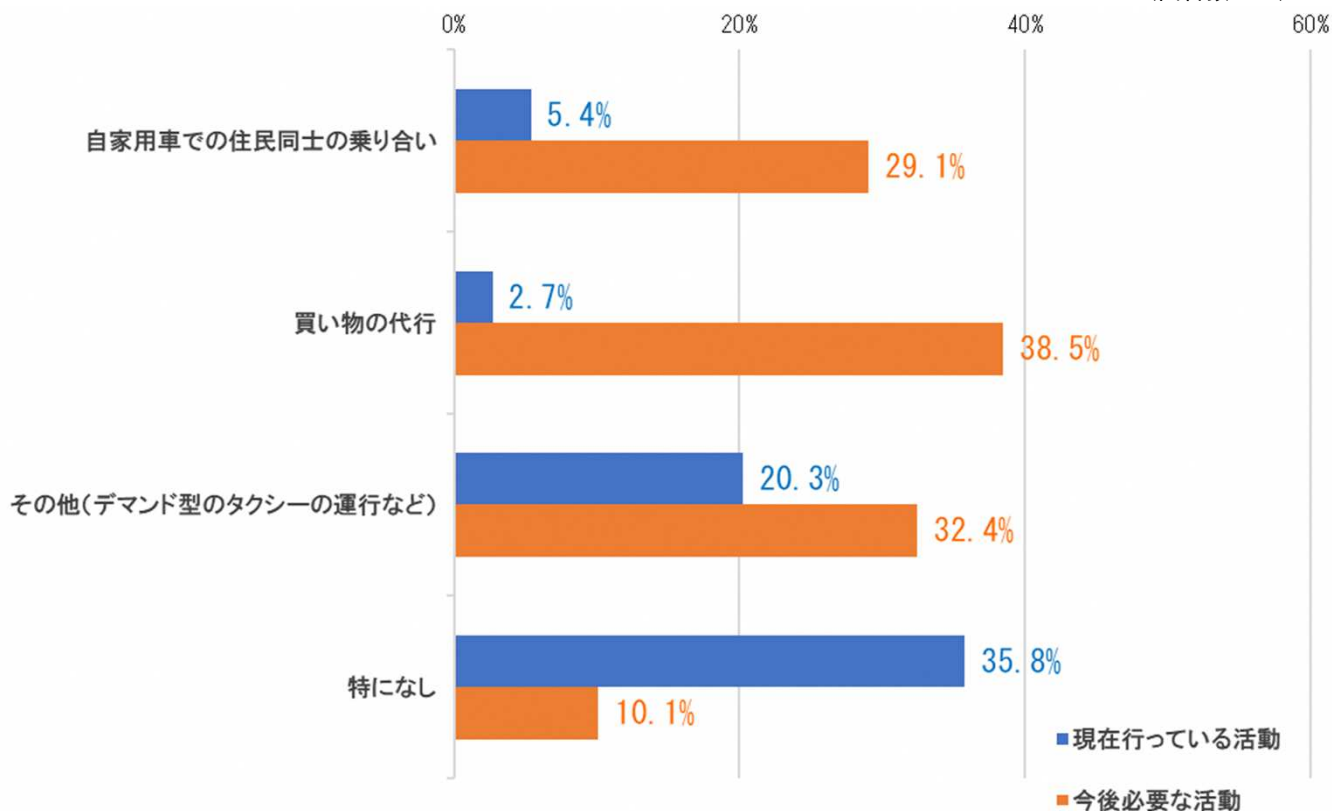
ポイント

- 人口減少・少子高齢化により伝統行事の開催や継続は難しいと考えている人の割合が多い。
- 今後必要な活動としての回答が現在行っている活動の割合を上回っているのは、「地域の特性を生かした地域づくり活動」と「大学や民間事業者との連携」となっている。特に、今後「大学や民間事業者との連携」が必要と考えている人の割合は、現在行っていると回答した人の7倍となっており、全体の約3割程度が大学等と連携した地域づくりをしたいという意向を持っている。

(エ) 医療・福祉について

問6-1：あなたの住む地域の「医療・福祉」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）

(回答数=148)



「医療・福祉」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「特になし」……………35.8%
- 2位：「その他（デマンド型のタクシーの運行など）」……………20.3%
- 3位：「自家用車での住民同士の乗り合い」……………5.4%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「買い物の代行」……………38.5%
- 2位：「その他（デマンド型のタクシーの運行など）」……………32.4%
- 3位：「自家用車での住民同士の乗り合い」……………29.1%

問6-1に寄せられた主な意見（問6-2）

- ・ 団塊世代があと10年もすると買い物難民になるのではないか
- ・ 高齢化による免許返納を考えると買い物代行・デマンドタクシーが必要
- ・ 病院や買い物に行く際の高齢者の交通手段の確保はますます深刻になってきており、自家用車での乗り合いは今後必要となるのかもしれないと思うが、事故を考えるとどうしても不安
- ・ 近隣に日用品を購入できる店は一軒だけであり、10年後もあるのか心配
- ・ 1日に6～7本バスが運行されているが、住民がバスをもっと利用すべきではないか
- ・ いざという時の互助の精神が不足気味とを感じるので、町内会同士の声かけが、いつでも、どこでも出来るようにしていければよいと感じる

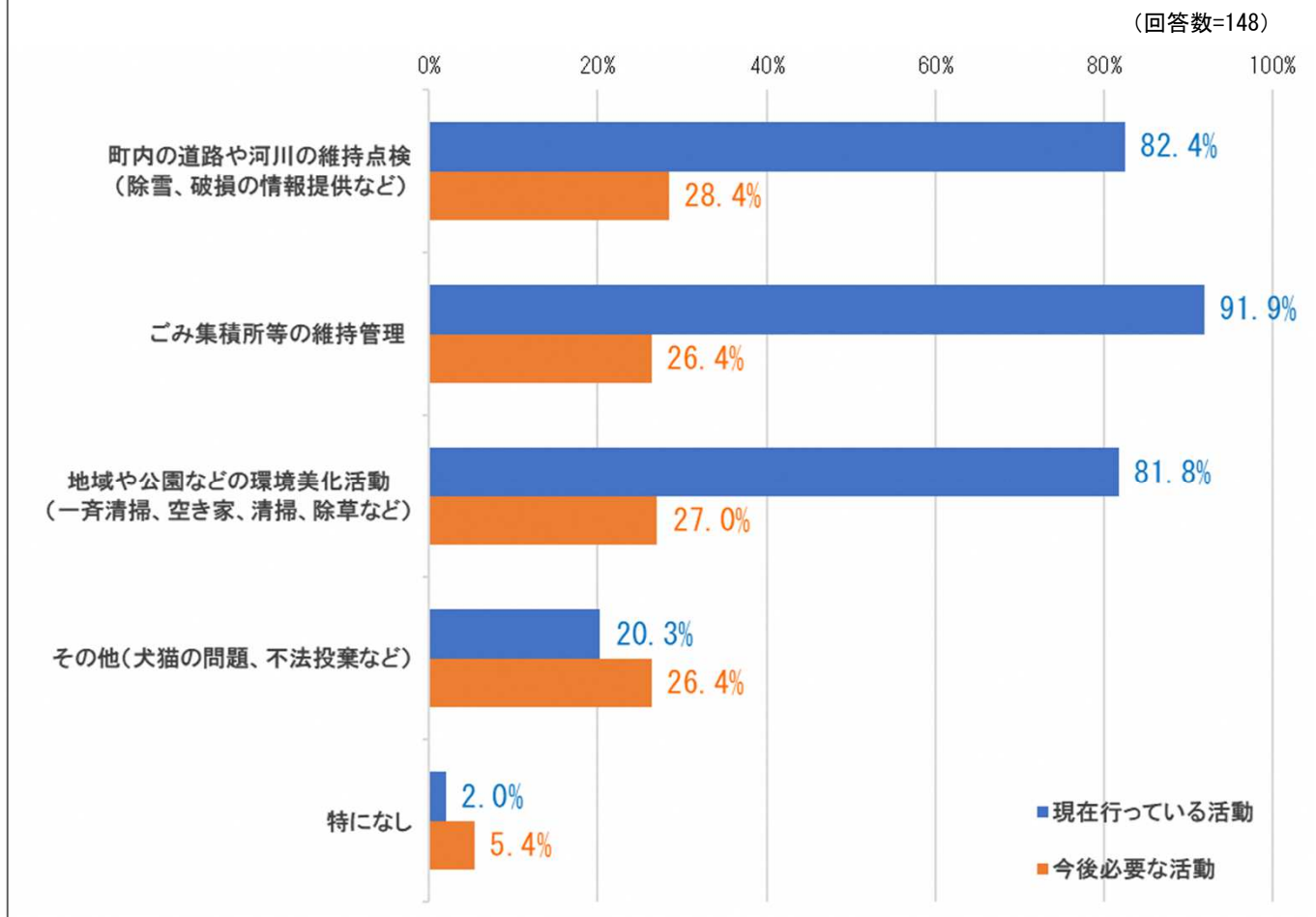


ポイント

- 現在、地域コミュニティが行っている「医療・福祉」の活動は「特になし」という回答が一番多いが、地域の高齢化の進展が想定される中、今後は「買い物の代行」や「自家用車での住民同士の乗り合い」など、高齢者の買い物支援や移動手段の確保の必要性を感じている人の割合が多い。

(オ) 生活環境について

問7-1：あなたの住む地域の「生活環境」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）



「生活環境」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「ごみ集積所等の維持管理」……………91.9%
- 2位：「町内の道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）」……………82.4%
- 3位：「地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）」……………81.8%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「町内の道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）」……………28.4%
- 2位：「地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）」……………27.0%
- 3位：「ごみ集積所等の維持管理」、「その他（犬猫の問題、不法投棄など）」……………26.4%

問 7 - 1 に寄せられた主な意見（問 7 - 2）

- ・環境美化活動には地区住民が参加しているが、高齢化等により近い将来は参加者の減少が予測されるため、今後は生活環境の整備維持は公的機関に頼らざるを得なくなるのではないかと
- ・公園の草刈りを毎年3回実施しているが、広すぎて町内会だけでの対応が大変なので、公的に草刈りを実施しても良いのではないかと
- ・地域に感心を持ってくれる若い世代が少なく、誰かが地区のことをやってくれるだろうと他人任せに考えているのではないかと感じ、今後は心配
- ・年3回、クリーン活動として地域や公園の清掃・草取りを行っているが、参加する世帯・不参加の世帯が固定化している

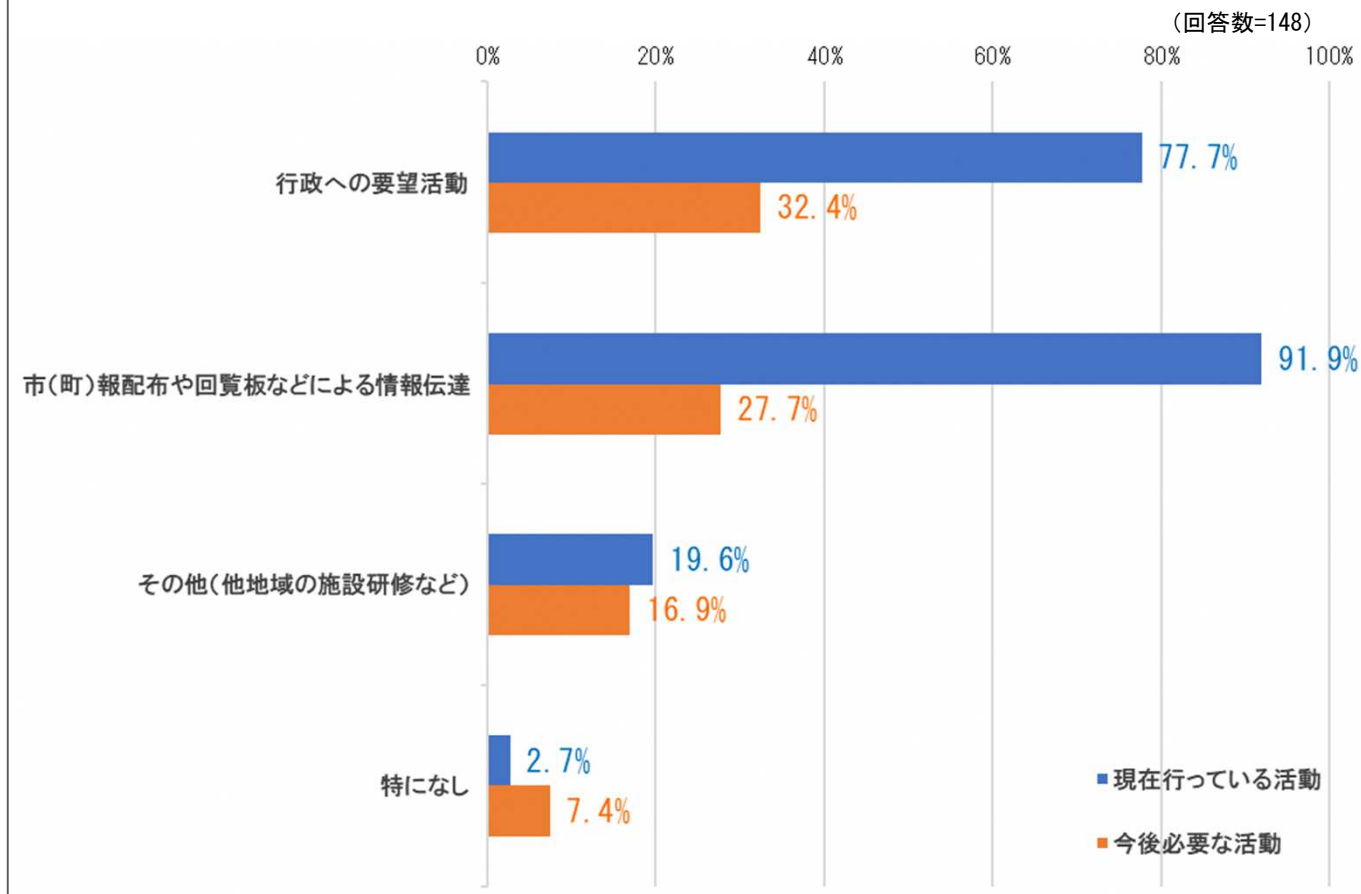


ポイント

- 「ごみ集積所等の維持管理」、「町内の道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）」、「地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）」は現在行っている活動として8～9割の回答があったが、人口減少や高齢化などを背景として、今後も必要な活動であると考えている人の割合は約3分の1にとどまる。

(カ) 行政・情報について

問8-1：あなたの住む地域の「行政・情報」について、現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（○はいくつでも）



「行政・情報」についてたずねたところ、現在行っている活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「市(町)報配布や回覧板などによる情報伝達」……………91.9%
- 2位：「行政への要望活動」……………77.7%
- 3位：「その他(他地域の施設研修など)」……………19.6%

一方、今後必要な活動として回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「行政への要望活動」……………32.4%
- 2位：「市(町)報配布や回覧板などによる情報伝達」……………27.7%
- 3位：「その他(他地域の施設研修など)」……………16.9%

問 8 - 1 に寄せられた主な意見（問 8 - 2）

- ・自治体から地域住民に対する情報提供が紙ベースの配布物である場合が多いが、インターネットやスマートフォンも普及していると思われるので、それらで閲覧したり、紙でなければならない方にのみ配布したりするなど、情報提供方法を工夫・検討しても良いのではないか
- ・一人暮らしの高齢者やハンディキャップのある方は情報入手し難い面があるのではないか
- ・他の自治体における要望活動の取組状況や行政情報の提供に係る取組事例を知りたい
- ・行政への要望は、地区の会長会での集約を経て行っている
- ・市長及び市議との意見交換会へ参加しているし、県への要望も行っているところであり、今後も継続することが大切と考える



ポイント

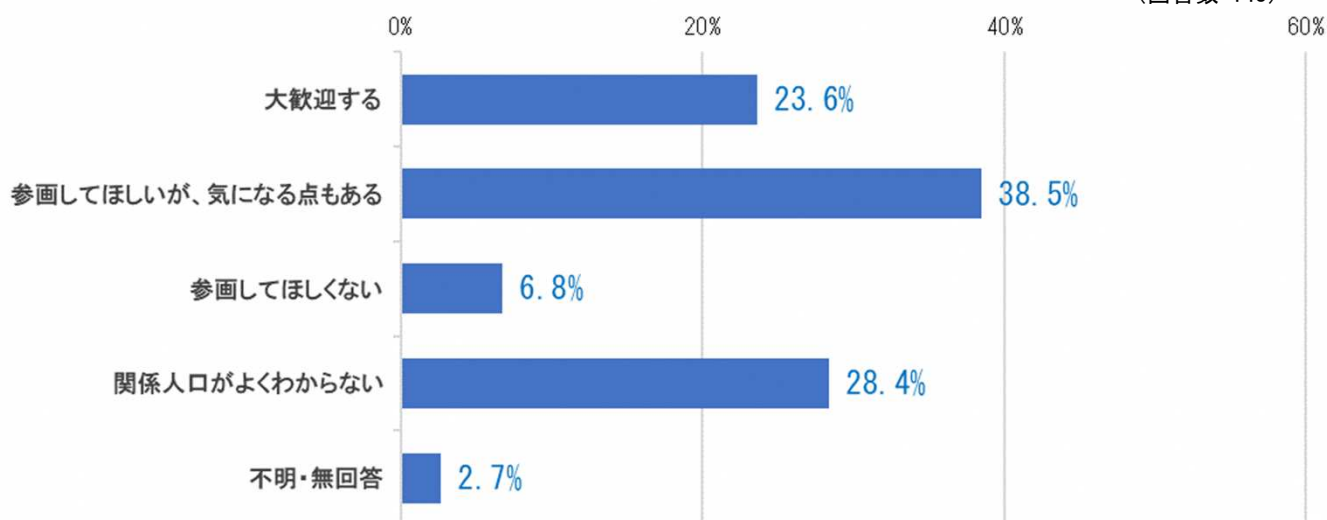
- 現在、9割以上が行っている「市（町）報配布や回覧板などによる情報伝達」は、現状のやり方では情報伝達が困難な人がいることや役員の負担が大きいこと、スマートフォンの普及などにより、今後必要な活動と考える人の割合は全体の3割以下にとどまる。
- 「行政への要望活動」は現在行っている活動として約8割の回答があり、自治体によっては市長・市議会議員との意見交換が毎年行われていたり、地区の会長が要望を集約して行政に伝える地域もあるが、今後必要な活動と考えている人の割合は3割程度にとどまる。

ウ 「関係人口」と地域コミュニティについて

(ア) 関係人口が地域コミュニティに参画することについて

問9-1：関係人口（県外在住の個人や地域活動に協力しているボランティア団体やNPO・企業等）があなたの地域の活動運営に主体的、継続的に参画することについて、どう思いますか。（○はひとつ）

(回答数=148)



「関係人口が地域コミュニティに参画すること」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「参画してほしいが、気になる点もある」……38.5%
- 2位：「関係人口がよくわからない」……28.4%
- 3位：「大歓迎する」……23.6%

問9-1に寄せられた主な意見（問9-2）

- ・ 県外の方や他の団体者から地域に入ってもらえれば、町に活気が生まれたり、新たな知恵や方向性等が見えてくる可能性が考えられるし、地域住民自身やそれ以外の方の興味関心を引くような地域の魅力発掘につながるのではないか
- ・ 長年の活動の中で地域活動が変わり映えしない状態になっていたり、高齢化の進展により活動が縮小しつつある中、地域が元気を取り戻すためには他の地域の方の参加が必要ではないか
- ・ 自分としては関係人口に参画してほしいが、参画してほしくないと思える住民もいると思われ、温度差があるのではないか

- ・関係人口の参画は良いとは思いますが、地域のことをきちんと理解してくれるか、地域住民と理解し合えるか、関係人口との事前打ち合わせが大変になるのではないかと、地域に押し付けがあるのではないかと等々、心配事や課題が多い気がする
- ・関係人口という内容を理解している人が少ないと思われるので、まずは若い人達の意見を聞いたり、住民に十分話をして、受け入れ体制ができれば良いが…
- ・地域の人口減少により自治会の存続が困難になってくると思うが、関係人口を受け入れる地域側の体制がとれない
- ・何年か後には当地区だけで自治会が成り立たなくなり、近隣地区と合同で自治会活動を行うことになるのではないかと考えているが、関係人口が参画しても定住者が増えないことには、結果的に地区の存続が難しくなる
- ・人口減少や共稼ぎが増えているので、外部人材が必要な時代になってきていると感じているが、地域と外部人材とのマッチングは信頼できる行政等にお願いしたい

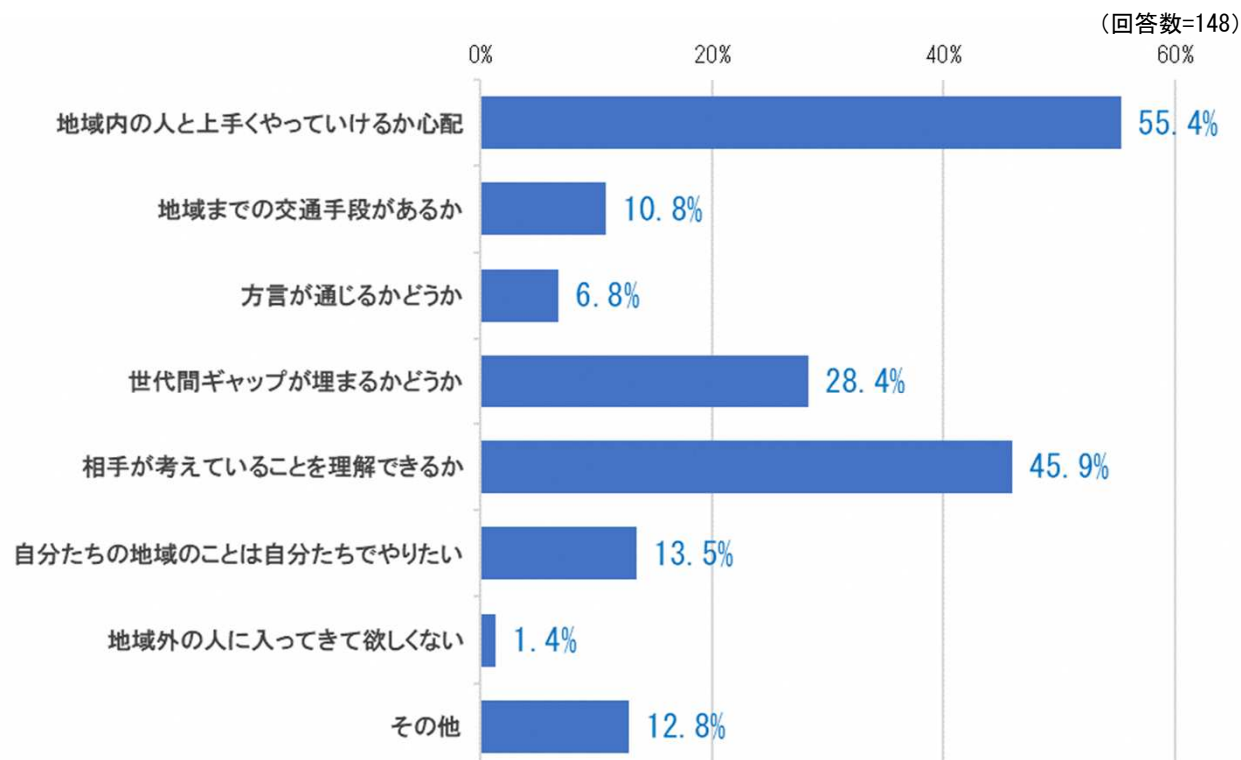


ポイント

- 関係人口が地域の活動に参画することを「大歓迎する」、「参画してほしいが、気になる点もある」と答えた人の割合は6割を超え、地域に地域外の人に関わることに肯定的な人の割合は半数を超えている。
- 一方で、「参画してほしいが、気になる点もある」、「関係人口がよくわからない」と答えた人の割合は約7割にものぼり、実際に関係人口が地域活動に参画するためには、関係人口の考え方や関係人口への関わり方についての理解促進が必要と考えられる。

(イ) 関係人口が地域で活動する際の心配ごとなどについて

問9-3：関係人口があなたの地域で活動する際の「心配ごと」「懸念事項」はありますか？あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○はいくつでも）



「関係人口が地域で活動する際の心配ごとなど」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域内の人と上手くやっていけるか心配」……………55.4%
- 2位：「相手が考えていることを理解できるか」……………45.9%
- 3位：「世代間ギャップが埋まるかどうか」……………28.4%

「その他」では、「地域住民に寄り添った対応をしてもらえるのか」や「知らない人が地域に入ってきて来て物事がうまくいくのか」などが挙げられた。

問9-3に寄せられた主な意見（問9-4）

- ・関係人口が地域で活動する必要性を感じないし、そもそも子どもたちが他県に出ているのに県外から関係人口が来るとは思えない
- ・地域住民に寄り添った対応をしてもらえるか、知らない人が来て地域住民とうまく物事をやっていくことができるか等不安

- ・役員も多忙で集まることもままならず、他の地域の方と交流する余裕もない
- ・不安はいろいろあるが、まずは、地域側・関係人口側がお互いにていねいに説明し、話を聞くようにすることが大事
- ・地区と外部をつなぐ人材はいずれ必要になると思う
- ・関係人口が地域で活動するというような一過性の対応では効果はあまりないため、居住者の増加が望ましい

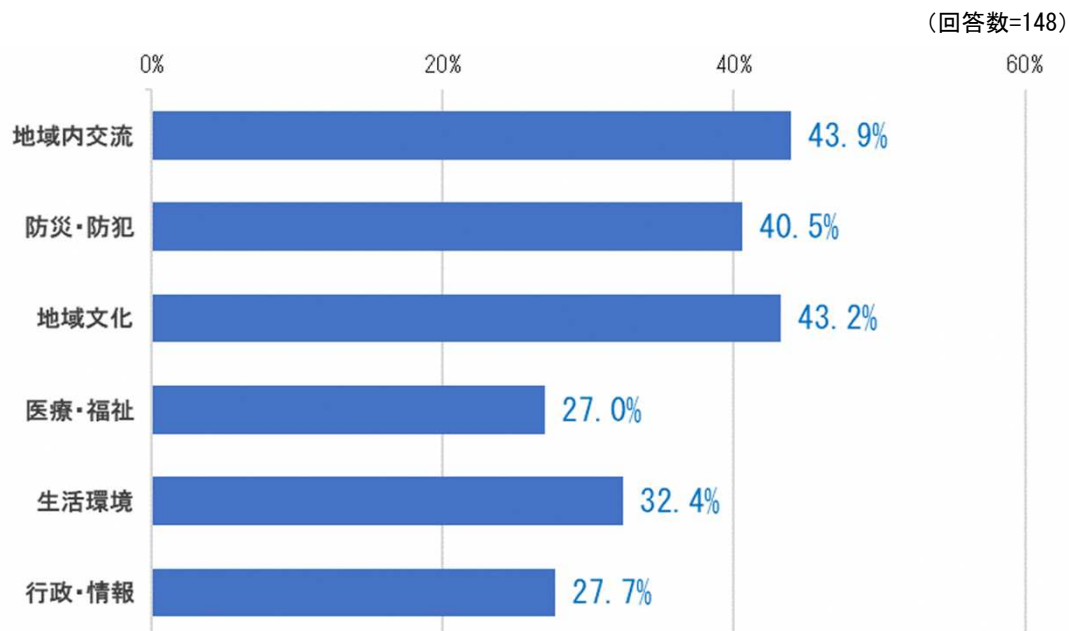


ポイント

- 全体の1割強が「自分たちの地域のことは自分たちでやりたい」と地域の主体性を重視し、関係人口が地域で活動することを求めている。また、そもそも「地域外の人に入ってきて欲しくない」と答えた人もわずかだがいる。
- 関係人口が地域活動に参画するにあたっては、「関係人口の考えていることを理解できるか」、「関係人口が地域内の人と上手くやっていけるか」、「地域に対して関係人口が意見を押し付けることをしないか」、「地域内の人と関係人口の相互理解ができるか」といったコミュニケーションの問題について懸念を感じている人の割合が多い。
- 多忙な役員に合わせた柔軟な対応や、地域と関係人口のやりとりを住民任せにしない“つなぐ人材”の発掘など、一過性ではない継続的な取組みが求められる。

(ウ) 関係人口の力によって解決できそうな地域の課題について

問10：あなたの住む地域の課題について、関係人口の力によって解決できそうなものはありますか。



「関係人口の力によって解決できそうな地域の課題」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域内交流」……………43.9%
- 2位：「地域文化」……………43.2%
- 3位：「防災・防犯」……………40.5%

関係人口の力によって解決できそうな地域の課題

～アンケートに寄せられた主な意見～

地域内交流

- ・ 除雪や居場所づくりなどの高齢者や子育て世代への支援、参加
- ・ 交流の場の企画や実施に向けた協力、交流への参加
- ・ 若年層が興味を示すような地域行事の企画や実施に向けた協力、行事への参加

防災・防犯

- ・ 防災活動や詐欺被害防止に向けた企画や指導
- ・ 防災訓練や備蓄などの他の地域・自治体における取組に係る情報提供

地域文化

- ・ 伝統行事や祭りの開催への協力、参加
- ・ 新しい行事・祭り等の企画や実施に向けた協力、参加

医療・福祉

- ・ 高齢者に対する通院・買い物支援への協力、参加
- ・ 高齢者一人世帯への見守り・関わりへの協力、参加

生活環境

- ・ 公園等の草刈や除草作業への協力、参加
- ・ 道路や河川清掃への協力、参加

行政・情報

- ・ 紙による情報提供やホームページを活用した情報提供への協力、サポート
- ・ 空き家の有効活用や重要文化財の維持・管理に係る協力、参加



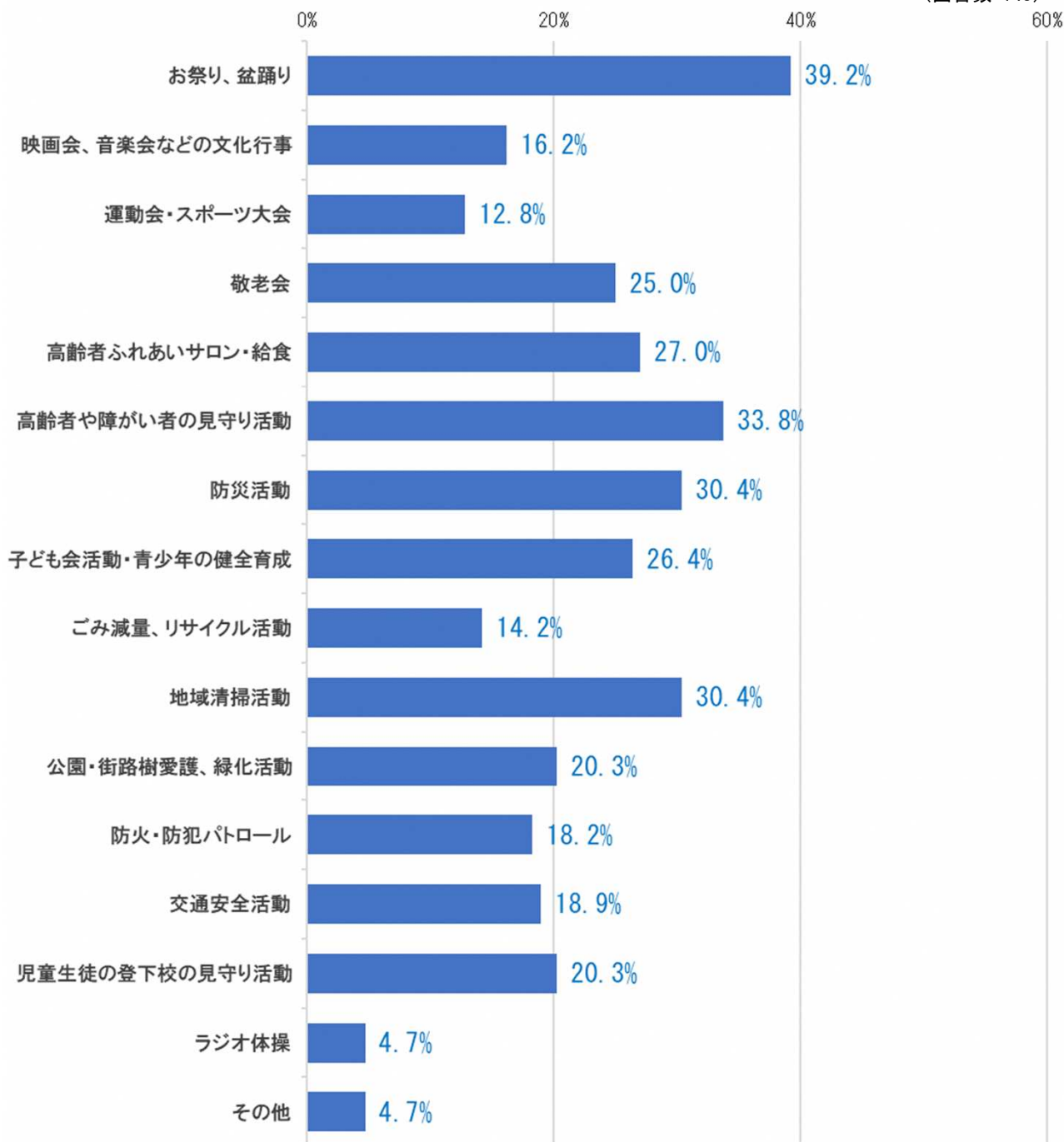
ポイント

- どの分野でも、関係人口の力によって解決できそうな地域の課題はあるが、特に高齢世帯・子育て世帯のサポートや交流、住民と連携した新たな取組や情報発信、お祭りなどの行事への企画や参加などにおいて、関係人口が関わる余地があると考える人の割合が多い。

(エ) 関係人口に参画してほしい地域活動について

問11：関係人口が主体的、継続的に参画してほしい地域活動があれば教えてください。
(〇はいくつでも)

(回答数=148)



「関係人口に参画してほしい地域活動」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

1位：「お祭り、盆踊り」……………39.2%

- 2位 : 「高齢者や障がい者の見守り活動」 ……33.8%
3位 : 「防災活動」、「地域清掃活動」 ……30.4%
5位 : 「高齢者ふれあいサロン・給食」 ……27.0%
「その他」では、「除雪」などが挙げられた。



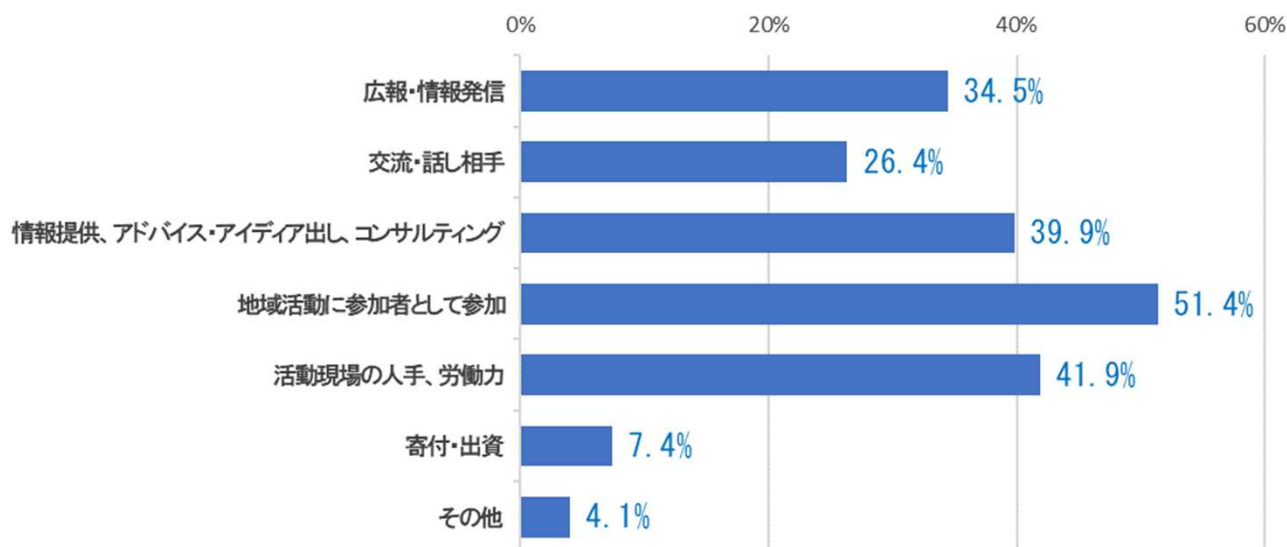
ポイント

- 「お祭り、盆踊り」や「高齢者や障がい者の見守り活動」、「防災活動」及び「地域清掃活動」などが回答の多い項目となっており、関係人口が参画するイメージが湧きやすい順番と言えるのではないか。

(オ) 地域活動の持続・活発化に寄与する地域外の方の活動内容

問12：地域外の方がどのような形で参画すれば、地域活動が持続・活発化したいと思いますか。（〇はいくつでも）

(回答数=148)



「地域活動の持続・活発化に寄与する地域外の方の活動内容」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域活動に参加者として参加」……………51.4%
- 2位：「活動現場の人手、労働力」……………41.9%
- 3位：「情報提供、アドバイス・アイデア出し、コンサルティング」………39.9%

「その他」では、「除雪」などが挙げられた。



ポイント

- 半数を超える地域コミュニティの代表者が関係人口から地域活動に参加者として参画してほしいと考えている。
- また、「一緒に活動の一部を担ってもらいたい」、「意見が欲しい」、「情報発信に携わって欲しい」などのニーズがそれぞれ約3～4割程度ある。

エ まとめ

【地域コミュニティの現状】

- 多くの地域において、高齢化による参加者の減少や固定化などにより地域コミュニティの運営が難しい状況にある。
- 人口減少により10年後、20年後の地域の将来像が見えないといった意見もあり、今後の地域コミュニティの活動をどのようにしていけばよいのかを模索したり、不安を感じている。

《背景・要因》

- ・ 新型コロナの影響により、約3年間活動ができなかったことから、地域活動の復活や継続が困難な状況に直面している。
- ・ 役員の担い手不足や住民の高齢化に加え、共働き世帯の増加なども要因の一つになっている。働き続ける高齢者の増加等も背景に、地域住民は日々の生活が多忙であり、地域活動に参加できないという状況も伺える。

【関係人口に対する地域のマインド】

- 地域では今後の活動の在り方を模索しており、地域が持続的に機能していくためには、地域が個々に考えて活動するだけでは限界があると感じている。
- 地域活動に関係人口が参画することについては、「関係人口とは何かわからない」、「歓迎するが住民との相互理解が図れるか」等の不安を抱いている。
- 関係人口に期待することとしては、祭りなどの行事への参加や若い人たちとの情報交換・人的交流を望んでいる人も多く、地域側のマインドは“閉じていない”ということが推察される。

2 2 地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

近年、人口減少や少子高齢化の進展は著しく、人口減少対策や活力ある地域づくりに関連した市町への支援が村山総合支庁における喫緊の課題となっている。

そこで、関係人口の参画による地域コミュニティ機能の維持・協働の可能性を探るため、関係人口の意識及び地域コミュニティ機能の維持・協働の可能性の把握を目的に、以下の調査を実施した。

※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指す。

イ 調査期間

令和5年11月30日～令和6年1月14日

ウ 調査対象

山形県外に在住する方

エ 調査方法

インターネットによるアンケート調査

オ 調査内容

- ・ 地域コミュニティに関わることの意識について
 - ・ 地域コミュニティへの関わり方について
 - ・ 地域コミュニティへ関わることの不安・心配について
- ※詳細については「V 参考資料3」の調査票を参照。

カ 回収結果

- ・ 回収数 : 397件
- ・ 無効数 : 33件 (山形県在住者32、無記入1)
- ・ 有効数 : 364件

キ 注意事項

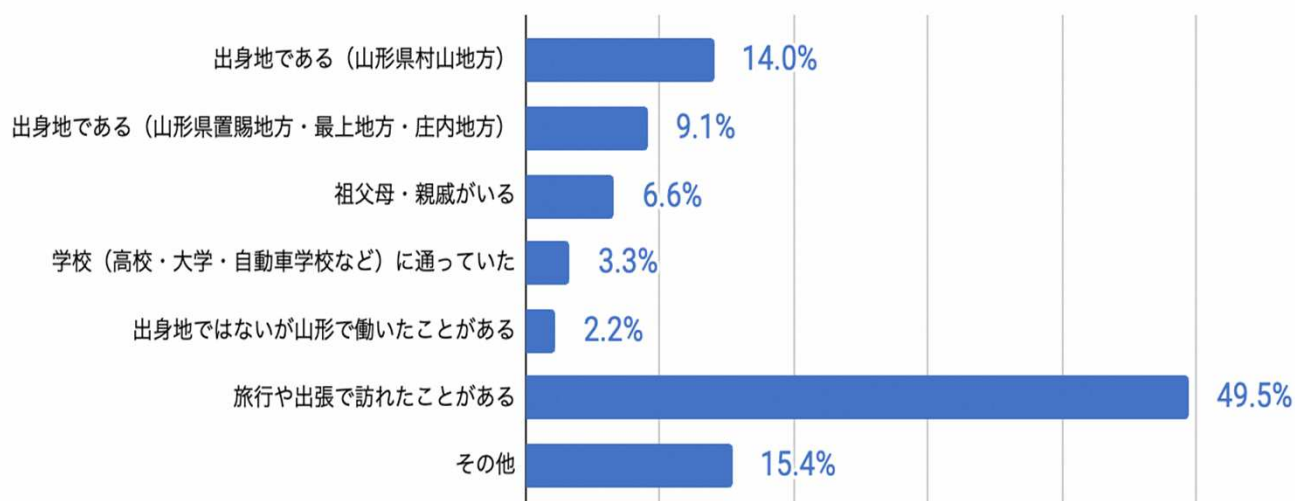
- 図表中の「回答数」は、設問に対する回答者総数である。
- 百分比は回答者総数全体(該当設問においては該当者数)に占める設問の選択者数の比率として算出している。なお、図表では小数点第2位をそれぞれ四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答が可能な設問の百分比の合計は、100%を超えることがある。

(2) 調査結果

ア アンケート回答者の属性

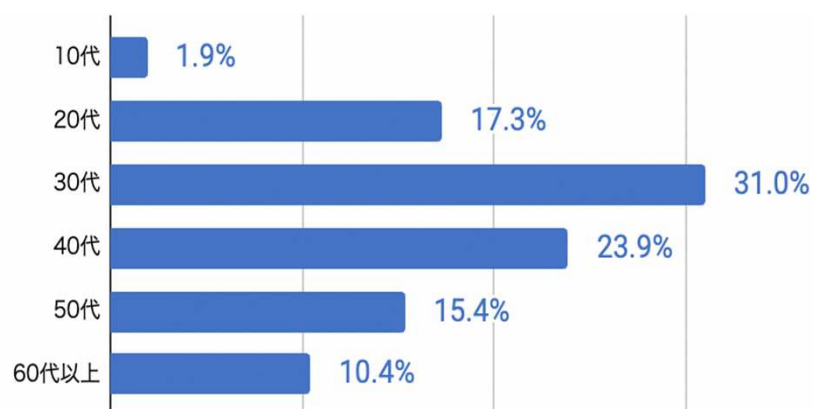
(ア) 山形県との関わり

(回答数=364)



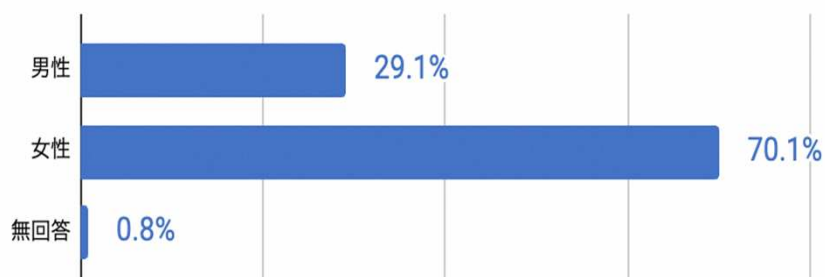
(イ) 年代

(回答数=364)



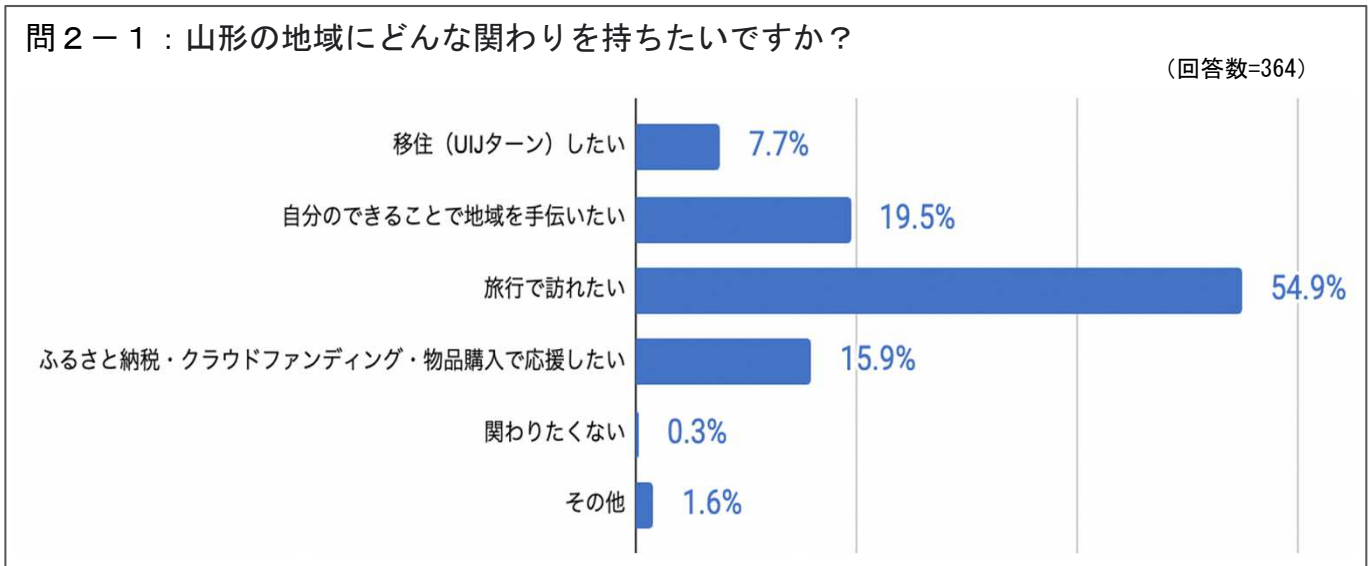
(ウ) 性別

(回答数=364)



イ 「山形の地域と関わることの意識」について

(ア) 山形県との関わりについて



「山形に地域に対してどんな関わりを持ちたいか」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「旅行で訪れたい」…………… 54.9%
- 2位：「自分のできることで地域を手伝いたい」…………… 19.5%
- 3位：「ふるさと納税・クラウドファンディング・物品購入で応援したい」…………… 15.9%

〔属性別集計表〕

問2-1 山形の地域にどんな関わりを持ちたいですか。	回答数	移住(UJターン)したい	自分のできることで地域を手伝いたい	旅行で訪れたい	ふるさと納税・クラウドファンディング・物品購入で応援したい	関わりたくない	その他
全体	364	28 (7.7%)	① 71 (19.5%)	200 (54.9%)	58 (15.9%)	1 (0.3%)	6 (1.6%)
性別							
男性	106	5 (4.7%)	31 (29.2%)	54 (50.9%)	13 (12.3%)	1 (0.9%)	2 (1.9%)
女性	255	23 (9.0%)	40 (15.7%)	143 (56.1%)	45 (17.6%)	0 (0.0%)	4 (1.6%)
不明	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
年代							
20代以下	70	7 (10.0%)	② 25 (35.7%)	26 (37.1%)	12 (17.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
30代	113	11 (9.7%)	20 (17.7%)	62 (54.9%)	18 (15.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)
40代	87	4 (4.6%)	12 (13.8%)	52 (59.8%)	16 (18.4%)	0 (0.0%)	3 (3.4%)
50代	56	5 (8.9%)	10 (17.9%)	34 (60.7%)	6 (10.7%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)
60代以上	38	1 (2.6%)	4 (10.5%)	26 (68.4%)	6 (15.8%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)
山形との関わり							
出身者							
出身地である(山形県村山地方)	50	13 (26.0%)	25 (50.0%)	2 (4.0%)	9 (18.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)
出身地である(山形県置賜地方・最上地方・庄内地方)	③ 33	6 (18.2%)	17 (51.5%)	3 (9.1%)	4 (12.1%)	0 (0.0%)	3 (9.1%)
それ以外							
祖父母・親戚がいる	21	2 (9.5%)	2 (9.5%)	14 (66.7%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
学校(高校・大学・自動車学校など)に通っていた	12	0 (0.0%)	3 (25.0%)	9 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
出身地ではないが山形で働いたことがある	④ 8	3 (37.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
旅行や出張で訪れたことがある	182	3 (1.6%)	18 (9.9%)	131 (72.0%)	30 (16.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	58	1 (1.7%)	4 (6.9%)	39 (67.2%)	11 (19.0%)	1 (1.7%)	2 (3.4%)



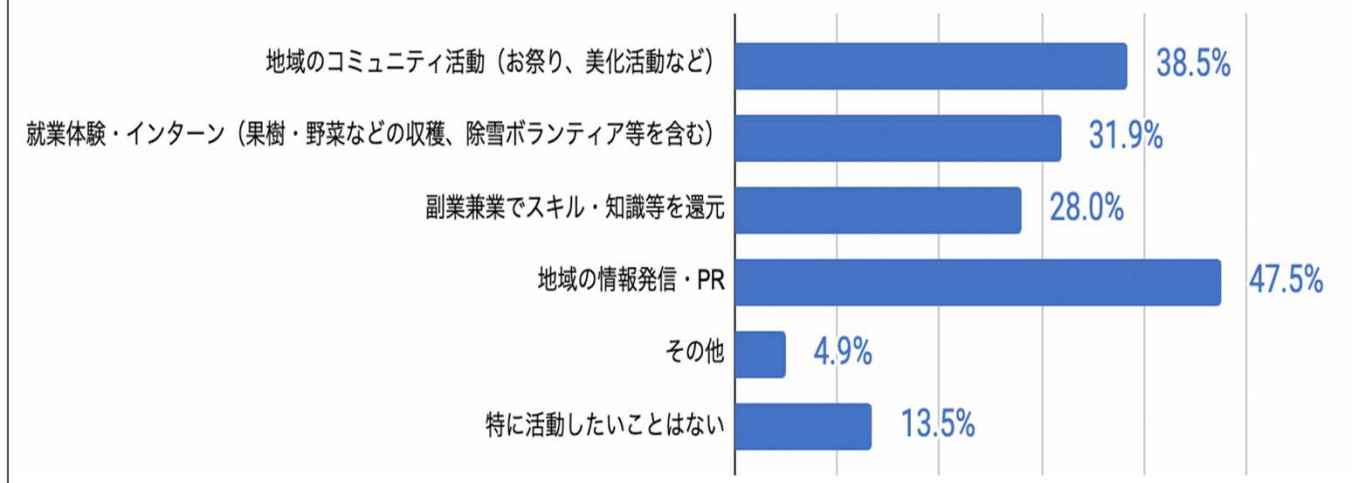
ポイント

- ① 「自分のできることで地域を手伝いたい」と回答した人の割合は、約2割となっている。
- ② 『20代以下』層は「自分のできることで地域を手伝いたい」と答えた割合が他の年代と比較して高い。
- ③ 『山形県出身者』層は「移住(UJターン)したい」、「自分のできることで地域を手伝いたい」と回答した人の割合が高い。
- ④ 『出身地ではないが山形で働いたことがある』層は「移住(UJターン)したい」と回答した人の割合が高い。

(イ) 活動内容について

問2-2：地域で活動する場合、どんな内容の活動をしたいですか？（複数回答可）

(回答数=364)



「山形の地域で活動する場合、どんな内容の活動をしたいか」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「地域の情報発信・PR」……………47.5%
- 2位：「地域のコミュニティ活動（お祭り、美化活動など）」……………38.5%
- 3位：「就業体験・インターン（果樹・野菜などの収穫、除雪ボランティア等を含む）」……………31.9%

〔属性別集計表〕

問2-2 地域で活動する場合、どんな内容の活動をしたいですか。（複数回答可）	回答数	地域のコミュニティ活動（お祭り、美化活動など）	就業体験・インターン（果樹・野菜などの収穫、除雪ボランティア等を含む）	副業兼業でスキル・知識等を還元	地域の情報発信・PR	その他	特に活動したいことはない
全体	364	140 (38.5%)	116 (31.9%)	102 (28.0%)	173 (47.5%)	18 (4.9%)	49 (13.5%)
性別							
男性	106	39 (36.8%)	30 (28.3%)	49 (46.2%)	48 (45.3%)	4 (3.8%)	7 (6.6%)
女性	255	100 (39.2%)	84 (32.9%)	51 (20.0%)	123 (48.2%)	14 (5.5%)	42 (16.5%)
不明	3	1 (33.3%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
年代							
20代以下	70	34 (48.6%)	24 (34.3%)	28 (40.0%)	40 (57.1%)	0 (0.0%)	5 (7.1%)
30代	113	50 (44.2%)	33 (29.2%)	31 (27.4%)	57 (50.4%)	5 (4.4%)	16 (14.2%)
40代	87	27 (31.0%)	28 (32.2%)	25 (28.7%)	39 (44.8%)	7 (8.0%)	15 (17.2%)
50代	56	19 (33.9%)	23 (41.1%)	13 (23.2%)	23 (41.1%)	2 (3.6%)	7 (12.5%)
60代以上	38	10 (26.3%)	8 (21.1%)	5 (13.2%)	14 (36.8%)	4 (10.5%)	6 (15.8%)
山形との関わり							
出身者							
出身地である(山形県村山地方)	50	22 (44.0%)	11 (22.0%)	27 (54.0%)	29 (58.0%)	3 (6.0%)	1 (2.0%)
出身地である(山形県置賜地方・最上地方・庄内地方)	33	14 (42.4%)	11 (33.3%)	17 (51.5%)	20 (60.6%)	3 (9.1%)	3 (9.1%)
それ以外							
祖父母・親戚がいる	21	10 (47.6%)	4 (19.0%)	4 (19.0%)	7 (33.3%)	2 (9.5%)	4 (19.0%)
学校(高校・大学・自動車学校など)に通っていた	12	5 (41.7%)	3 (25.0%)	3 (25.0%)	4 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (16.7%)
出身地ではないが山形で働いたことがある	8	2 (25.0%)	3 (37.5%)	3 (37.5%)	5 (62.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
旅行や出張で訪れたことがある	182	63 (34.6%)	60 (33.0%)	44 (24.2%)	80 (44.0%)	8 (4.4%)	28 (15.4%)
その他	58	24 (41.4%)	24 (41.4%)	4 (6.9%)	28 (48.3%)	2 (3.4%)	11 (19.0%)

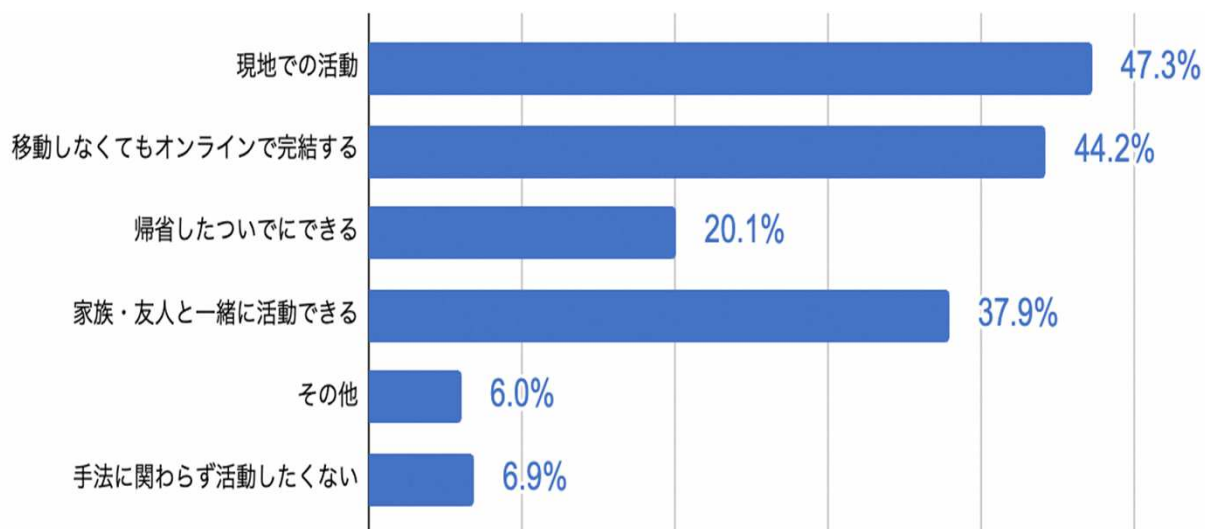


ポイント

- ① 地域で活動する場合の内容について、「地域の情報発信・PR」と回答した人の割合が約5割と最も高い。
- ② 『山形県出身者』層は「副業兼業でスキル・知識等を還元」や「地域の情報発信・PR」で、『祖父母・親戚がいる』層や『学校に通っていた』層では「地域のコミュニティ活動（お祭り、美化活動など）」で活動したい人の割合が高い。

(ウ) 活動手法について

問2-3：地域で活動する場合、どのような手法を希望しますか？（複数回答可）
 (回答数=364)



「山形の地域で活動する場合、どのような手法を希望するか」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「現地での活動」…………… 47.3%
- 2位：「移動しなくてもオンラインで完結する」…………… 44.2%
- 3位：「家族・友人と一緒に活動できる」…………… 37.9%

〔属性別集計表〕

問2-3 地域で活動する場合、どのような手法を希望しますか。（複数回答可）	回答数	現地での活動	移動しなくてもオンラインで完結する	帰省したついでにできる	家族・友人と一緒に活動できる	その他	手法に関わらず活動したくない
全体	364	① 172 (47.3%)	161 (44.2%)	73 (20.1%)	138 (37.9%)	22 (6.0%)	25 (6.9%)
性別							
男性	106	54 (50.9%)	49 (46.2%)	24 (22.6%)	30 (28.3%)	8 (7.5%)	6 (5.7%)
女性	255	115 (45.1%)	111 (43.5%)	48 (18.8%)	107 (42.0%)	13 (5.1%)	19 (7.5%)
不明	3	3 (100.0%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
年代							
20代以下	70	37 (52.9%)	37 (52.9%)	19 (27.1%)	25 (35.7%)	2 (2.9%)	3 (4.3%)
30代	113	53 (46.9%)	57 (50.4%)	25 (22.1%)	50 (44.2%)	4 (3.5%)	7 (6.2%)
40代	87	39 (44.8%)	36 (41.4%)	14 (16.1%)	35 (40.2%)	7 (8.0%)	8 (9.2%)
50代	56	31 (55.4%)	19 (33.9%)	9 (16.1%)	20 (35.7%)	4 (7.1%)	2 (3.6%)
60代以上	38	12 (31.6%)	12 (31.6%)	6 (15.8%)	8 (21.1%)	5 (13.2%)	5 (13.2%)
山形との関わり							
出身者							
出身地である(山形県村山地方)	50	24 (48.0%)	28 (56.0%)	② 37 (74.0%)	18 (36.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)
出身地である(山形県置賜地方・最上地方・庄内地方)	33	18 (54.5%)	16 (48.5%)	15 (45.5%)	10 (30.3%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)
それ以外							
祖父母・親戚がいる	21	9 (42.9%)	8 (38.1%)	8 (38.1%)	7 (33.3%)	1 (4.8%)	3 (14.3%)
学校(高校・大学・自動車学校など)に通っていた	12	5 (41.7%)	10 (83.3%)	2 (16.7%)	4 (33.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)
出身地ではないが山形で働いたことがある	8	③ 7 (87.5%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)	4 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
旅行や出張で訪れたことがある	182	83 (45.6%)	71 (39.0%)	5 (2.7%)	71 (39.0%)	15 (8.2%)	15 (8.2%)
その他	58	26 (44.8%)	26 (44.8%)	3 (5.2%)	24 (41.4%)	2 (3.4%)	5 (8.6%)



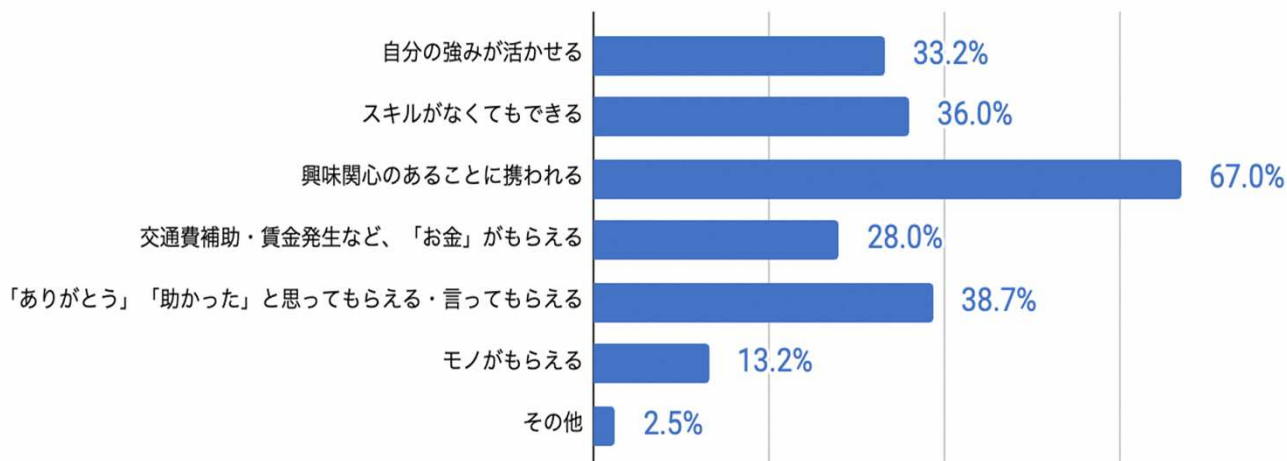
ポイント

- ① 「現地での活動」、「移動しなくてもオンラインで完結する」と答えた人の割合はそれぞれ約5割となっている。
- ② 『山形県出身者』層は「帰省したついでにできる」と回答した人の割合が高い。
- ③ 『出身者ではないが山形で働いたことがある』層は、「現地での活動」と回答した人の割合が高く、約9割となっている。

(エ) 活動する上で大事なこと

問2-4：地域で活動する上で大事なことは何ですか？2つまで選んでください。活動したくないと回答した方は、もし仮に活動する場合を想定して回答してください。

(回答数=364)



「地域で活動する上で大事なこと」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「興味関心のあることに携われる」…………… 67.0%
- 2位：「ありがとう」「助かった」と思ってもらえる・言ってもらえる…………… 38.7%
- 3位：「スキルがなくてもできる」…………… 36.0%

〔属性別集計表〕

問2-4 地域で活動する上で大事なことは何ですか。2 つまで選んでください。	回答数	自分の強みが 活かせる	スキルがな くてもでき る	興味関心の あることに 携われる	交通費補助・賃 金発生など、 「お金」がもら える	「ありがとう」「助 かった」と思っ てもらえる・言 ってもらえる	モノがもら える	その他
全体	364	121 (33.2%)	131 (36.0%)	244 (67.0%)	102 (28.0%)	141 (38.7%)	48 (13.2%)	9 (2.5%)
性別								
男性	106	51 (48.1%)	30 (28.3%)	60 (56.6%)	29 (27.4%)	41 (38.7%)	12 (11.3%)	3 (2.8%)
女性	255	68 (26.7%)	100 (39.2%)	182 (71.4%)	72 (28.2%)	99 (38.8%)	36 (14.1%)	6 (2.4%)
不明	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
年代								
20代以下	70	32 (45.7%)	22 (31.4%)	51 (72.9%)	24 (34.3%)	29 (41.4%)	8 (11.4%)	1 (1.4%)
30代	113	39 (34.5%)	45 (39.8%)	77 (68.1%)	37 (32.7%)	38 (33.6%)	14 (12.4%)	2 (1.8%)
40代	87	26 (29.9%)	30 (34.5%)	55 (63.2%)	21 (24.1%)	35 (40.2%)	13 (14.9%)	4 (4.6%)
50代	56	12 (21.4%)	18 (32.1%)	40 (71.4%)	15 (26.8%)	22 (39.3%)	12 (21.4%)	1 (1.8%)
60代以上	38	12 (31.6%)	16 (42.1%)	21 (55.3%)	5 (13.2%)	17 (44.7%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)
山形との 関わり								
出身者								
出身地である(山形県村山地方)	50	26 (52.0%)	14 (28.0%)	35 (70.0%)	16 (32.0%)	22 (44.0%)	6 (12.0%)	2 (4.0%)
出身地である(山形県置賜地方・最上地方・庄内地方)	33	18 (54.5%)	13 (39.4%)	23 (69.7%)	5 (15.2%)	11 (33.3%)	3 (9.1%)	3 (9.1%)
それ以外								
祖父母・親戚がいる	21	7 (33.3%)	7 (33.3%)	11 (52.4%)	5 (23.8%)	6 (28.6%)	5 (23.8%)	0 (0.0%)
学校(高校・大学・自動車学校など)に通っていた	12	4 (33.3%)	5 (41.7%)	7 (58.3%)	5 (41.7%)	4 (33.3%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)
出身地ではないが山形で働いたことがある	8	3 (37.5%)	4 (50.0%)	5 (62.5%)	4 (50.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)
旅行や出張で訪れたことがある	182	56 (30.8%)	59 (32.4%)	123 (67.6%)	53 (29.1%)	75 (41.2%)	23 (12.6%)	3 (1.6%)
その他	58	7 (12.1%)	29 (50.0%)	40 (69.0%)	14 (24.1%)	21 (36.2%)	8 (13.8%)	1 (1.7%)



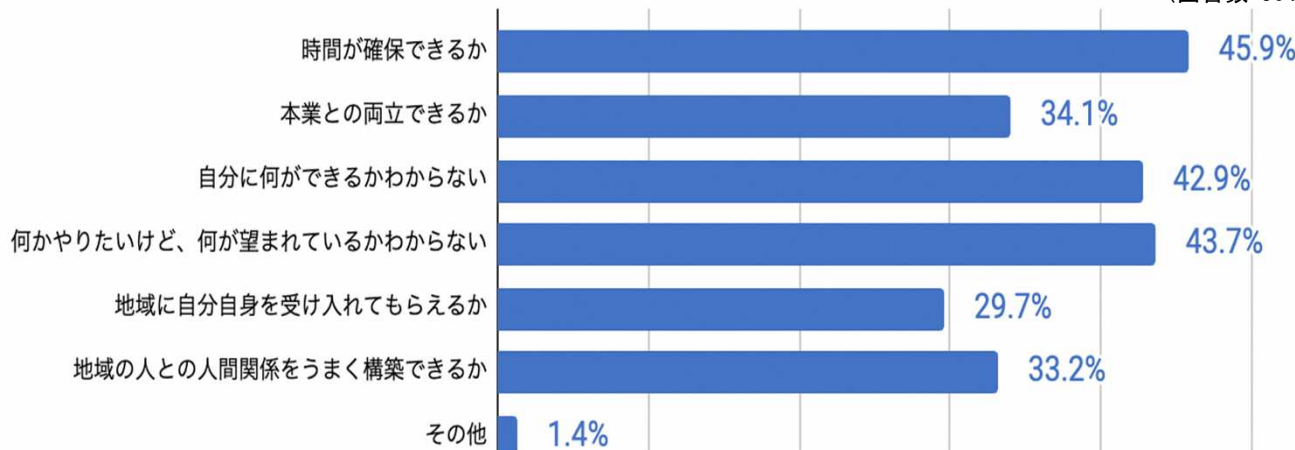
ポイント

- ① 地域で活動する上で「興味関心のあることに携われる」と答えた人の割合が約7割となっており、重要視している人が多い。
- ② 『山形県出身者』層は、「自分の強みが活かせる」と回答した人の割合が約5割となっており、県外出身者と比べて割合が高い。

(オ) 活動する上での不安・心配

問2-5：地域で活動する上でどのような不安・心配がありますか？（複数回答可）
活動したくないと回答した方は、もし仮に活動する場合を想定して回答してください。

(回答数=364)



「地域で活動する上でどのような不安・心配があるか」についてたずねたところ、回答が多かった順は下記のとおりとなっている。

- 1位：「時間が確保できるか」…………… 45.9%
- 2位：「何かやりたいけど、何が望まれているかわからない」…………… 43.7%
- 3位：「自分に何ができるかわからない」…………… 42.9%

〔属性別集計表〕

問2-5 地域で活動する上でどのような不安・心配 がありますか。（複数回答可）	回答数	時間が確保 できるか	本業との両 立できるか	自分に何が できるかわ からない	何かやりた いけど、何 が望まれて いるかわか らない	地域に自分 自身を受け 入れてもら えるか	地域の人と の人間関係 をうまく構 築できるか	その他
全体	364	167 (45.9%)	124 (34.1%)	156 (42.9%)	159 (43.7%)	108 (29.7%)	121 (33.2%)	5 (1.4%)
性別								
男性	106	50 (47.2%)	45 (42.5%)	25 (23.6%)	39 (36.8%)	28 (26.4%)	36 (34.0%)	1 (0.9%)
女性	255	115 (45.1%)	78 (30.6%)	129 (50.6%)	117 (45.9%)	79 (31.0%)	84 (32.9%)	4 (1.6%)
不明	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
年代								
20代以下	70	37 (52.9%)	33 (47.1%)	29 (41.4%)	32 (45.7%)	17 (24.3%)	17 (24.3%)	0 (0.0%)
30代	113	58 (51.3%)	42 (37.2%)	51 (45.1%)	49 (43.4%)	41 (36.3%)	35 (31.0%)	1 (0.9%)
40代	87	38 (43.7%)	25 (28.7%)	34 (39.1%)	37 (42.5%)	25 (28.7%)	31 (35.6%)	2 (2.3%)
50代	56	21 (37.5%)	16 (28.6%)	24 (42.9%)	26 (46.4%)	15 (26.8%)	26 (46.4%)	1 (1.8%)
60代以上	38	13 (34.2%)	8 (21.1%)	18 (47.4%)	15 (39.5%)	10 (26.3%)	12 (31.6%)	1 (2.6%)
山形との 関わり								
出身者								
出身地である(山形県村山地方)	50	21 (42.0%)	22 (44.0%)	20 (40.0%)	26 (52.0%)	8 (16.0%)	9 (18.0%)	1 (2.0%)
出身地である(山形県置賜地方・最上地方・庄内地方)	33	18 (54.5%)	16 (48.5%)	12 (36.4%)	10 (30.3%)	8 (24.2%)	12 (36.4%)	0 (0.0%)
それ以外								
祖父母・親戚がいる	21	9 (42.9%)	6 (28.6%)	11 (52.4%)	12 (57.1%)	8 (38.1%)	6 (28.6%)	0 (0.0%)
学校(高校・大学・自動車学校など)に通っていた	12	9 (75.0%)	5 (41.7%)	8 (66.7%)	7 (58.3%)	4 (33.3%)	5 (41.7%)	0 (0.0%)
出身地ではないが山形で働いたことがある	8	3 (37.5%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
旅行や出張で訪れたことがある	182	81 (44.5%)	58 (31.9%)	69 (37.9%)	77 (42.3%)	65 (35.7%)	65 (35.7%)	2 (1.1%)
その他	58	26 (44.8%)	13 (22.4%)	32 (55.2%)	23 (39.7%)	12 (20.7%)	24 (41.4%)	2 (3.4%)



ポイント

- ① 地域で活動する上での不安・懸念について、「時間が確保できるか」と答えた人の割合が約5割となっており、「何かやりたいけど、何が望まれているかわからない」、「自分に何ができるかわからない」と答えた人の割合もそれぞれ約4割を超えている。
- ② 『山形県出身者』層は、「本業との両立ができるか」と答えた人の割合が約5割となっており、県外出身者と比べて割合が高い傾向にある。

ウ まとめ

【地域に関わることの意識】

- 若年層は、山形県との関わり方として「自分のできることで地域を手伝いたい」という意向が強い。
- 県内出身者はもとより、「出身地ではないが山形で働いたことがある」層のような山形県に居住経験がある人は、「移住（UIJターン）したい」と回答した割合が高い。

【地域との関わり方に対する考え】

- 実際に地域で活動するのであれば、「地域の情報発信・PR」の活動をしたいと回答した人が多い。
- 県内出身者は、「副業兼業でスキル・知識等を還元する活動」、「地域の情報発信・PR」といった活動を望んでいる人が多く、活動する上では「自分の強みが活かせること」、「興味関心のあることに携われること」を重要と考えている。

【地域に関わることの不安・心配】

- 地域の活動に参画することを想定すると、時間の確保や仕事や勉強などの本業との両立ができるか不安に思う人が多い。
- また、多くの人が「何かやりたいけど、何が望まれているかわからない」、「自分に何ができるかわからない」といった不安や心配を抱えている。

【地域に対する関係人口のマインド】

- 活動する手法としては、「現地での活動」と共に、気軽に行える「オンラインでの活動」という回答が多い。
- 関係人口側は、地域に関わって活動することに関心はあっても、具体的に何をすればいいのか、地域は何を求めているのか、それに対して自分は何ができるか、という不安・懸念を持っているため、地域側から「こんなことをしてほしい」、「一緒にやろう」という具体的な活動の提示があった方が地域の活動に参画しやすいと思われる。

3 3 交流イベント実施報告書

(1) 交流イベントの概要

ア 交流イベントの目的

近年、人口減少や少子高齢化の進展は著しく、人口減少対策や活力ある地域づくりに関連した市町への支援が村山総合支庁における喫緊の課題となっている。

そこで、関係人口の参画による地域コミュニティ機能の維持・協働の可能性を探るため、地域コミュニティ活動に興味のある首都圏在住の若者等による交流イベントを開催し、実際に地域コミュニティとオンラインでつなぎ、「地域コミュニティ参画に係る意識調査」だけでは拾いきれない関係人口（※）の細かな意見を聴取した。

※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指す。

[交流イベントのねらい]

- 1回目：関係人口が地域の困りごとに対する解決の糸口を見つけること
- 2回目：関係人口に主体性を持ってもらうこと

イ 申込方法等

- (1) 定員 20名
- (2) 対象者 村山地域のコミュニティに関心のある首都圏在住者
- (3) 参加費 学生・10代：無料、20代：1,000円、30～40代：2,000円、50代以上：3,000円
- (4) 告知方法
「ヤマガタ未来ラボ」ホームページ・SNS



【参考】ヤマガタ未来ラボとは…

山形に関わる全ての人が、これからの自分らしい山形との関わり方を見つけられるようになるための情報・機会を提供するコーディネートメディア。イベント情報や 求人情報、県内在住者によるコラム、県内外の山形ゆかりの人物・場所等のインタビュー記事、職業体験プログラムの企画運営、コミュニティ形成の場の提供などを行う。

- ・月間PV約30,000前後（5～6割は県外からのアクセス）
- ・ユーザー層：山形県内で働く、または、県外在住の山形にゆかりのある20～40代の男女がメイン。今後の自分のキャリアを模索していたり、県外で山形県へのUITターンを潜在的・顕在的に検討している人によく見られている。

- (5) 申込方法 専用申込フォーム（「ヤマガタ未来ラボ」ホームページ）
 - 1回目交流イベントページ <https://mirailab.info/event/42882>
 - 2回目交流イベントページ <https://mirailab.info/event/43090>

(2) 交流イベント実施結果

ア 1回目交流イベント概要

◆ 内容

山形と東京をオンラインでつなぎ、村山地域の地域コミュニティ組織から当該地域の「課題」や「もっとこうしたい」と思っていることを交流イベント参加者（以下「参加者」という。）である首都圏在住者（関係人口）に伝え、参加者が地域を活性化させるアイデア出しを行う交流イベントを開催した。

1回目の交流イベントのねらいは「地域コミュニティの困りごとの解決の糸口を見つけてもらうこと」とした。

◆ 日時

令和5年11月25日（土）13時30分～15時30分

◆ 会場

ピアノラウンジゆき（〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目4-16 花椿ビル）



山形出身・在住歴のあるご夫妻（小川力也さん・小川弘子さん）がオーナーで、山形県アンテナショップのパートナーショップにもなっており、季節の山形のフルーツを提供する等山形愛が溢れるお店

◆ ゲスト地域・ゲストスピーカー

山形市やよい町内会 会長 門脇 徹 氏

(場所：やよい町集会所 (〒990-0835 山形県山形市やよい2丁目1-33))



交流イベント当日は、やよい町集会所からオンラインで参加

◆ プログラム

- 1 開会
- 2 山形の地域を元気にするアイデア出しタイム
 - (1) やよい町内会による課題提示
 - (2) アイデア出し
 - (3) フィードバック
- 3 交流タイム
- 4 閉会

◆ 参加者

- ・人数：13人 (※全員現地参加)
- ・性別：男性…9人、女性…4人
- ・年代：20代…4人、30代…4人、40代…3人、50代以上…2人
- ・出身：山形県出身…12人、それ以外…1人

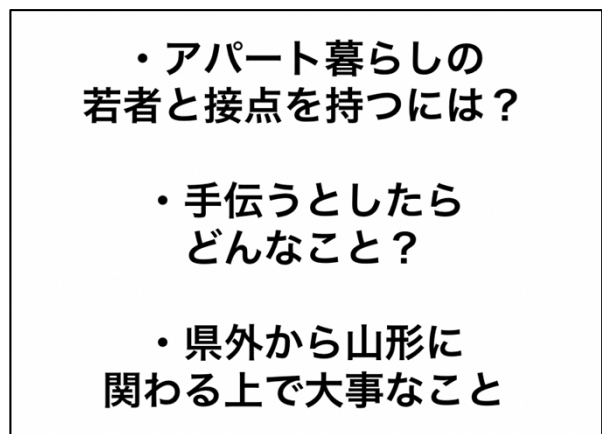
「町内会のお悩み解決アイデア出し」の様子

- ① 町内会長がやよい町内会を紹介した後、悩みである「アパートに住む一人暮らし等の若者と接点がないが、どのようにアプローチしたら良いのか」という点について説明し、参加者が意見交換。

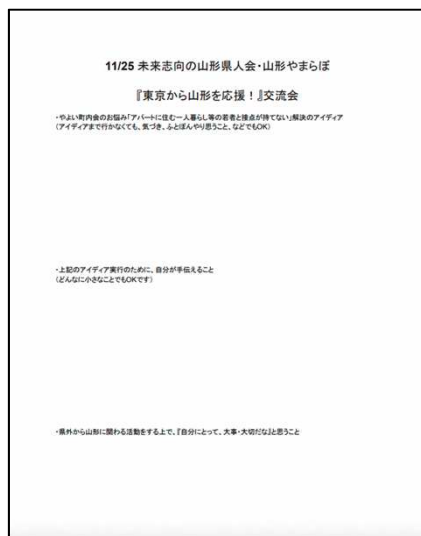


YoutubeアカウントやHPを開設して情報発信したり、防災講演会を実施するなど町内会の活動内容を町内会長から聞く参加者

「やよい町内会」説明資料



② 参加者が4人1組程度のグループになって、お悩み解決のアイデアについて意見交換。



参加者はワークシートを使用



町内会のお悩みのお解決策について話し合う参加者



町内会長に質問する参加者

③ 参加者が考えた内容を町内会長に発表して終了。



「アイデア出し」で出たアイデアの一覧

やよい町内会のお悩み「アパートに住む一人暮らし等の若者と接点を持ってない」解決のアイデア（アイデアまで行かなくても、気づき、ふとぼんやり思うこと、などでもOK）

●若者が課題と感ずることと解決策の方向性

- ・町内会というものを知らない／町内会に入ると何ができるのか何が良いのかわからない／町内会って何？入る理由がわからない（町内会がなくても困らない時代ではないか）
⇒ 入会後のメリットを明確にする／町内会のお知らせやイベント等のチラシをポストに投函するなどして外に出たくなる理由を作ると良いのではないか／入りたくない人に、強制的と感ずないアプローチが必要ではないか
- ・町内会長が「何かあった時に若者を助けたい」という趣旨のお話をされていたが、体力的に有事の際には若者は助けられる側というより高齢の方を助ける側になる方が自然と考えられるのではないか。だから「助けたいので」と言われるよりも「助けて」と言われた方が「じゃあ、力貸しますよ！」と出ていく気になると思う

●モノでつると若者は出てくるんじゃないか？

- ・交流会を開催して米やギフト券を配布し、参加しない場合はLINEグループを作ってメッセージのやり取り（対面じゃなくても良いと思う）
- ・各スーパーなどの割引チラシの配布
- ・県産品の定期便（フルーツ、米など）

●連絡手段ニーズ：LINEの活用

- ・公式LINE（入居時登録、時々発信・月1回くらい）
- ・町内会のLINEグループ →メッセージのやりとりだけでもOK
- ・連絡はLINEで、Zoomで会議する

●若者のニーズの利用 例）「行きつけの店が欲しい」等

- ・町内会に参加しなくてもフラッと行けるような行きつけの飲食店があるといいと思うので、地域の飲食店に協力してもらったり、飲食店に若者向け町内会の広報に協力してもらってはどうか

●イベント

- ・若い人が楽しいと思うイベントを開催する

●ネックと思われる点

- ・田舎の高齢者の話は長い
- ・世代間ギャップ
- ・世代が違くと全然受け入れられない感じがする
- ・ITリテラシー

上記のアイデア実行のために、自分が手伝えること

- ・普段県外にいる時は、お店の宣伝PRをして（オンラインで活動）、山形に帰省した時に、リアルに手伝うというやり方ができると気づいた
- ・今回みたいに相談に乗ります！

県外から山形に関わる活動をする上で、『自分にとって、大事・大切だな』と思うこと

- ・相手のためになるという前提のもと、自分が楽しいことが重要
- ・山形のことを案外知らないと県外に出て初めて気づいたので、自分が山形を知ることが重要
- ・関係者がお互いに尊重すること
- ・今回のようなイベントに参加すること
- ・やりがい・貢献している感を実感できること
- ・県外にいても地元の課題を考えること

交流タイムの様子



ワークショップ後に、交流タイムを実施



交流イベント会場と一緒に、町内会長も遠隔で乾杯



交流タイムの最中に、グループで話し合っていた内容（参加者の実際の体験談）を1対1で町内会長に伝え、意見交換



最後に集合写真を撮影

参加者の感想

Q 1 本日の交流イベントに参加してみたの、率直な感想を教えてください。

- ・山形を感じるすてきな会でした。
- ・東京にも山形LOVEな方が沢山いることを知れて嬉しくなりました。
- ・東京にいても同郷の人と会う機会がないのでよかったです。
- ・事前課題設定が用意されている方が話が早い。交流→課題の方が盛り上がる。参加する人の動機が分かると仲間意識が生まれて楽しめる。
- ・真面目なディスカッションもあり新鮮だった。
- ・山形では味わえない雰囲気と人柄に触れることができ素直に楽しかった！！
- ・楽しかったです。
- ・人数、会場の広さ、雰囲気、とてもよかったです。ワークショップも良かったです。
- ・楽しい時間を過ごせました。
- ・東京にいながら山形への想いが強い人とお話する事ができ、有意義な時間となりました。
- ・楽しかったです。初めて参加しましたが、来てよかったです。
- ・初めて参加しましたが、若い方もたくさんいらっやって、とても楽しい時間を過ごしました。また、このような機会にぜひ参加したいと思います！
- ・山形の食べ物がおいしくて、山形の方ともお話しできて楽しかったです。

Q 2 交流イベントに参加したことで、「県外から山形に関わる」気持ちに変化はありますか？

- ・もっと手伝いたい気持ちになった …… 12人
- ・特に変わりはない …………… 1人
- ・関わりたい気持ちが減った …………… 0人

Q 3 上記の気持ちの変化の理由・背景・要因と思われることは何だと思えますか？
簡単で良いので、教えてください。

- ・地域おこしではないですけど、山形を広めることができればと思います。
- ・みなさん同じ気持ち・意見が一致した。
- ・地元の課題は解決していきたい。
- ・身近に感じられるイベントであったから。
- ・皆さんと色々なお話ができたこと。
- ・若い人が真剣に考えてる事がわかった。
- ・楽しいから
- ・山形を知ること
- ・また参加したい。山形をもっと知りたい。
- ・県外から山形に関わっている方が意外と多かったの、私も少しでも何かお役に立てればと思いました。
- ・山形のいい所をもっとアピールして、集客率をあげたいです。
- ・山形関連で動いている方がたくさんいらっやって、東京の関係者が多いことを知ったため。

Q 4 その他、お気づきの点などあれば、ご自由にご記入ください。

- ・定期的にイベントがあるとありがたいです。
- ・店いいですね。また参加したいです。
- ・もっとこういった交流会を増加してほしい。
- ・ありがとうございました。

地域コミュニティ側の感想

交流イベント終了後、「『アイデア出し』で出たアイデアの一覧」（41ページに記載）をお渡しし、交流イベントで出たアイデアをフィードバックするとともに、交流イベントに参加した感想を伺いました。



山形市やよい町内会
会長 門脇 徹 氏

Q1 参加者の意見を聞いて、どうでしたか？

- 若い人の意見を直接聞いてよかった。若い人はメリットがなければ町内会に参加しないといった意見など参考になった。
- 画面の向こうでグループで話し合ってる内容はわからなかったが、前に出てきてくれた方と画面越しに直接詳しく話した内容には納得感があった。
- 早速、町内会の役員にも、交流イベントで聞いた意見を共有した。”若い人はメリットがなければ町内会には参加しない”という話を伝えたら、共感する意見もある反面「それだと老後が寂しくないだろうか？」という意見もあった。
- もらった意見を参考にして、自分たちに合わせた形でやれそうなことからやってみたい。

Q2 今回、こういうことをやってみてどうでしたか？

- 町内会の活動は『失敗したって良い。うまくいったら素晴らしい！少しでも前進すれば得！』という気持ちで行っている。今回の交流イベントに関わって若い人の話を聞く方法がわかったので、自分達でも形を変えてやってみようと思った。
- 若い人には、わたしたちのような地域の年配者に付度して発言したり、気に入られようとして媚びたりへつらったりしてほしくない。とんでもない発言をしたって良いので、どんどん意見が欲しい。

イ 2回目交流イベント概要

◆ 内容

山形県内で地域づくりに取り組んでいる方をゲストに招き、県外から山形に関わるときのポイント等を伝授していただくとともに、山形県村山地域のコミュニティ組織の話題を提供し、実際にどのように地域に関わるかなど地域をより良くしていくためのアイディア出しを行う交流イベントを開催した。

2回目の交流イベントのねらいは「関係人口に主体性を持ってもらうこと」とした。

なお、1回目交流イベント終了時のアンケートにおいて「交流してからアイディア出しをした方が意見が出しやすい」という意見が寄せられたため、アイディア出しの前に交流タイムを実施した。

◆ 日時

令和6年1月20日（土）14時～16時30分

◆ 会場

ピアノラウンジゆき（〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目4-16 花椿ビル）

◆ ゲスト地域・ゲストスピーカー

FURUSATOの未来 伊藤 一之氏



西山形の酒を造る会 副会長 柏倉 昭裕 氏（明源寺住職）



交流イベント当日は、山形市柏倉地区からオンラインで参加

◆ プログラム

- 1 開会
- 2 交流タイム1（自己紹介など）
- 3 講演「県外から山形に関わるときのコツ」（FURUSATOの未来 伊藤 一之氏）
- 4 山形の地域を元気にするアイデア出しタイム
- 5 交流タイム2
- 6 閉会

◆ 参加者

- ・人数：6人（※現地参加5人、オンライン参加1人）
- ・性別：男性…3人、女性…3人
- ・年代：20代…3人、30代…1人、40代以上…2人
- ・出身：山形県出身…6人

交流タイムの様子

- ① 現地参加者・オンライン参加者、共に自己紹介。



- ② 参加した理由、山形との関係、自分に取り組んでいることなどを紹介。



(交流タイム2の様子)



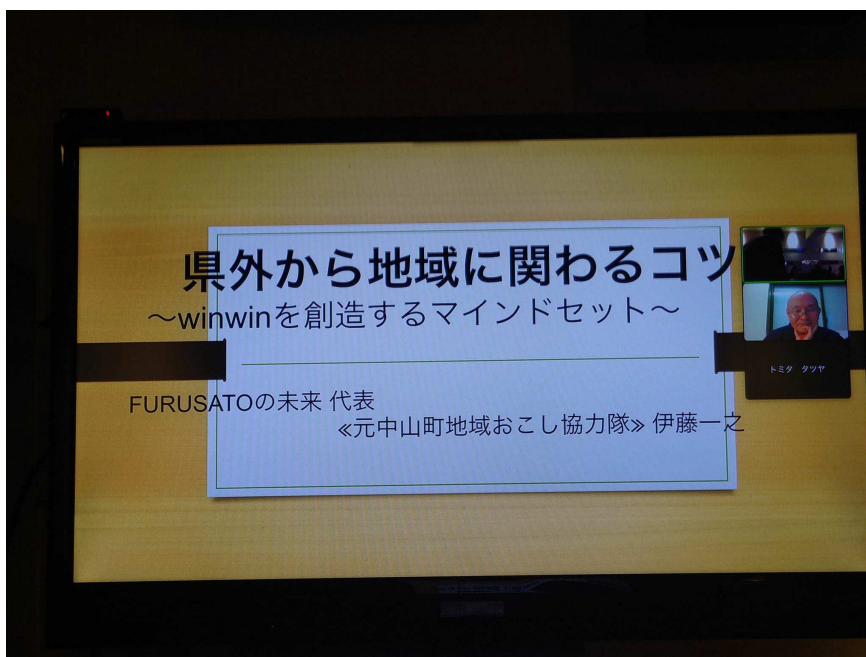
「西山形の酒を造る会」副会長からも「なぜ山形を出ていったのか?」、「どんなことに関心があるのか?」という参加者への質問があり、個別に答える場面もあった

講演「県外から山形に関わるときのコツ」

FURUSATOの未来 伊藤 一之氏より、

- ・Uターンのきっかけ
- ・Uターン後の活動
- ・地域おこし協力隊での活動で気づきを得た、地域で活動するときのポイントなどを踏まえ、「県外から地域に関わるコツ」をテーマに講演してもらった。

具体的には、「自分はどうしたいか」という主体性を保つことの大切さ、同時に自分のやりたいことの結果を求めるのが先ではなく、まずは、地域側と関係性をつくることを大切にすることが好循環を生むことなどを伝えてもらった。



「山形の地域を元気にするアイデア出し」の様子

県外から地域に関わるポイントを伝えた上で、「山形の地域を元気にするアイデア出し」を実施。今回のイベントでは「西山形の酒を造る会」に話題を提供してもらった。



司会が、事前にヒアリングしていた情報を踏まえ、「西山形の酒を造る会」について説明



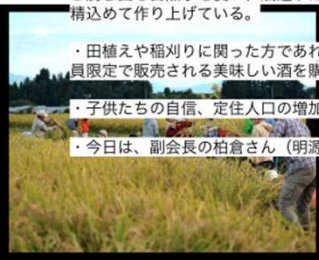
「西山形の酒を造る会」副会長が活動について説明したり、参加者からの質問に回答

「西山形の酒を造る会」説明資料

ゲスト地域へのアイデア出し

～西山形の酒を造る会～
日本酒『柏倉門傳』

- ・地元で取れた米と、地元のうまい水を使って、地元の酒を飲みたい
- ・平成17年から西山形の酒造り
- ・酒米（県産オリジナルの出羽燦燦）、地区内の田で栽培、水は荒沼から湧き出る自然水を使い、酒造りは地元の蔵人が多い「男山酒造」で丹精込めて作り上げている。
- ・田植えや稲刈りに関った方であれば地元の方以外でも会員となり、会員限定で販売される美味しい酒を購入できる（酒屋で買えない）
- ・子供たちの自信、定住人口の増加に繋げていきたい
- ・今日は、副会長の柏倉さん（明源寺 住職）がオンライン参加！



「アイデア出し」で出たアイデア一覧

西山形の酒を造る会が今後より良い活動をしていくためのアイデア

- ・ゲストハウスがあると良い
- ・西山形・地元に住んでいる人が1日生活する様子・生活をSNSやWEBに投稿する
- ・SNSアカウントで情報発信
- ・「ワーケーション」や「旅行がてらに農作業などを手伝う」
- ・若い人は、新聞などをみないので、SNSで発信すると良いと思う。
⇒まず知ってもらう ……インスタ、Facebook、Twitterなどの活用
- ・移住して欲しい場合は、成功者に話を聞くなどした方がよい。
- ・田植え、稲刈りをした姿を、Facebookに投稿したい。
- ・お寺の民泊活用（スペースマーケット、エアビーアンドビーなどの空間利活用マッチングサービスを活用してはどうか）
- ・世界に一つだけの親孝行の日本酒を作ろうという企画。商品は、田植え～お酒にするまでの工程体験とお酒自身。田んぼのオーナーとなり、自分の田んぼの田植え・稲刈りを行い、酒を造ってもらい、世界に一本だけの酒を親や恋人にプレゼントするという企画。稲の世話は、農家の人にやってもらう。親も手間ひまかけて息子が作った酒をプレゼントしてもらったら、すごく喜ぶのではないかな。

自分のこと	地域のこと
・好きなこと ・得意なこと ・やりたいこと	～西山形の酒を造る会～ 日本酒『柏倉門傳』
どんなことがしたい？ アイデア	



参加者に主体性を持ってもらうための工夫として「自分のこと（好きなこと・得意なこと等）」を記入するワークシートを用意

緩やかな雰囲気の中、雑談も交え、アイデアを提案

参加者の感想

Q 1 本日参加しようと思った「きっかけ」「理由」「背景」等を教えてください。

- ・ヤマガタ未来ラボのLINE公式アカウントに登録していて知ったから。
- ・11月のイベントに参加して良かったので再度参加した。
- ・酒屋の孫なので、山形の皆さんとのあるある交流を楽しみにしてきました。
- ・東京で山形と関わりたいから。今後、山形にUターンするにあたって、「山形の地域」とつながるヒントを得たかった
- ・スジェールバーを田園調布でやっていました。

Q 2 交流イベントに参加して、何か得られたものはありますか？

あった場合、それはどんなものですか？

- ・山形愛が深まりました。事業展開したいです。
- ・人とのつながり。
- ・元気、やる気、つながり、笑顔。
- ・Uターンして山形で活動するにあたっての心構え、つながり。東京で「山形」という共通事項で盛り上がったこと。
- ・伊藤さんの本質的な話。同じ朝日町出身者の方とつながりました。

Q 3 上記のようにお答えになった「要因」「ポイント」はどんなところですか？

- ・人とのつながりが大きいです。
- ・山形県出身だがなかなか普段知り合うきっかけがない。
- ・伊藤さんのおかげで、“あるある”をすごくわかりやすくプレゼンテーションしていただいた。
- ・伊藤さんの経験「関係質理論」。山形を懐かしむだけでなく「こうしたい」、「これはどう？」など未来志向の話ができた。
- ・実際当事者になること、評論家・上から目線の話はダメ。

Q 4 今後、どんな風に、山形の地域と関わりたいですか？

- ・デュアルライフをしていきたいので、山形にも何か役に立つことをしたいです。
- ・山形にIT・デジタルの分野で関わっていきたい。
- ・伊藤さんみたいな立ち位置に立って関わりたいです！
- ・自分が「住む」「働く」という形で関わりたい。「山形の良さ」をアピールしていきたい。
- ・毎月帰って山形を満喫します。

Q 5 その他、お気づきの点などあれば、ご自由にご記入ください。

- ・山形を活気ある場所にしたいです。
- ・食べ過ぎました。山形美味しいもの多いので。
- ・東京に出てきて良かったのは、ヤマガタ未来ラボに出会って、“山形にも面白いところってあるんじゃない”と思えたこと。今年山形にUターンします。

地域コミュニティ側の感想

交流イベント終了後、交流イベントについて感想を伺いました。



西山形の酒を造る会
副会長 柏倉 昭裕 氏
(明源寺住職)

Q 参加者の意見を聞いて、どうでしたか？

今回のワークショップに参加させていただき、感じたことは、皆様が「山形を何とかしたい気持ち」で溢れていたことです。「山形が好き」「でも、一人で、どうしたらいいのか分からない」。それを、支援する活動なのだと分かりました。

僕自身、京都に出て自分のやりたいことを思う存分に試し、実家の父母の介護のために山形に帰って来ました。だからこそ、会に出席されている「自分のやりたいことを試したい」若者の気持ちが分かります。ワークショップのざっくばらんな雰囲気の中でも、皆様の意見感想や僕の質問に応じた専門的アドバイスをお聞きすると、これなら東京で働いている若者も力強く生きて行ける気がしました。一人で悩まない仲間意識、友達が傍にいること、それだけでも、安心感につながります。「ふるさとを出ての東京での活動」と、「いざ帰ってくる場合の支援」、それは大事なことだと感じました。

僕は、お寺の住職として、心の面での地域おこしをやっています。心の面で、自信を取り戻し、美しさを再確認し、便利さやお金よりも心の面での豊かさ・安心感・充実感・満足感の大切さを発信しております。「西山形の酒を造る会」も、その一環です。また、個人的にも、都会と田舎をつなぎ、鬱や引きこもり、自殺問題、宗教問題など、「本当の意味での宗教とは何か」「生きる意味とは何か」ということを明らかにすることで、苦しみから出る支援をしています。会に参加されていた富田様からいただいた「世界に一つの自分の酒を親に贈る」という企画も、「柏倉門傳」とは別に、耕作放棄地を利用した地域活性化にならないものか、思案中です。僕自身、儲けようと気は全く無く、喜んでいただきたいし、喜びの声を、地域みんなに知っていただきたい。「柏倉門傳」も、儲けるためでなく、みんなが楽しむためのお酒として、造っているものです。

今回、ワークショップを通じて、様々な御意見をいただき、今の自分達に何が必要なのか精査いたします。とりあえず、皆さまに共通して言われた酒を造る会の「SNSアカウントの作成」を最優先にいたします。講師の伊藤一之先生の「何をやりたいのかゴールを決めて、その熱意で、周囲を溶かして行く」方法で行きたいと思えます。会でいただいた御意見を僕なりにまとめ、高野会長へも報告いたしました。

この度は、ワークショップに飛び入りで参加させていただき、誠にありがとうございました。これからも引き続き、一緒に活動して行きたいと思っております。よろしく願いいたします。

(3) まとめ

【関係人口】

- 地域外・県外に、山形の地域コミュニティに関心がある人は確かにいる。山形の良さや自分のアイデンティティに気付いて山形に関心を持ち、何かしていきたいと思っている人向けに、「山形に対して懐かしむだけじゃなくて、これからどう関わっていくか」という未来志向のコンセプトのイベントを首都圏で開催すると、20～30代の若い世代も参加する。
- その背景としては、SNSなどで個人が情報発信・収集しやすくなったこと、気持ちを共有する人があまり周囲にいないこと（山形県出身者が県外に出て、日常生活の中で山形県出身者と出会う機会は多くない。また、県外に転出した山形県出身者の中には「山形は好きで、将来はUターンしたい」、「山形は好きだがUターンはする気はない」、「Uターンするかどうかはわからないけれど、山形を応援・盛り上げたい」など、いろいろなタイプがいる。山形という共通事項があっても、「山形に関わりたい気持ち」に温度差があると、なかなか理解・共感が得られない場合も多々ある）などが挙げられる。
- イベントで参加者同士がつながることは、「自分だけじゃなかった」と、個人の思いを肯定する効果がある。「人とつながることの楽しさ」がイベントに再度参加してみようと思う動機になり、また「自信」へと、さらには個人が山形に関わる「勇気・モチベーション」へつながる。

【地域コミュニティ】

- 関係人口に関わってほしい・手伝ってほしいという想い・興味関心があっても、その存在を具体的にイメージすることができなければ「手伝ってくれる人なんて本当にいるのか」、「どんなことを考えている人たちなのか」などと感じるだけでピンと来にくい。しかし、オンラインでつながって実際に話をすると一気にイメージが湧く。

【地域コミュニティと関係人口の関係性構築】

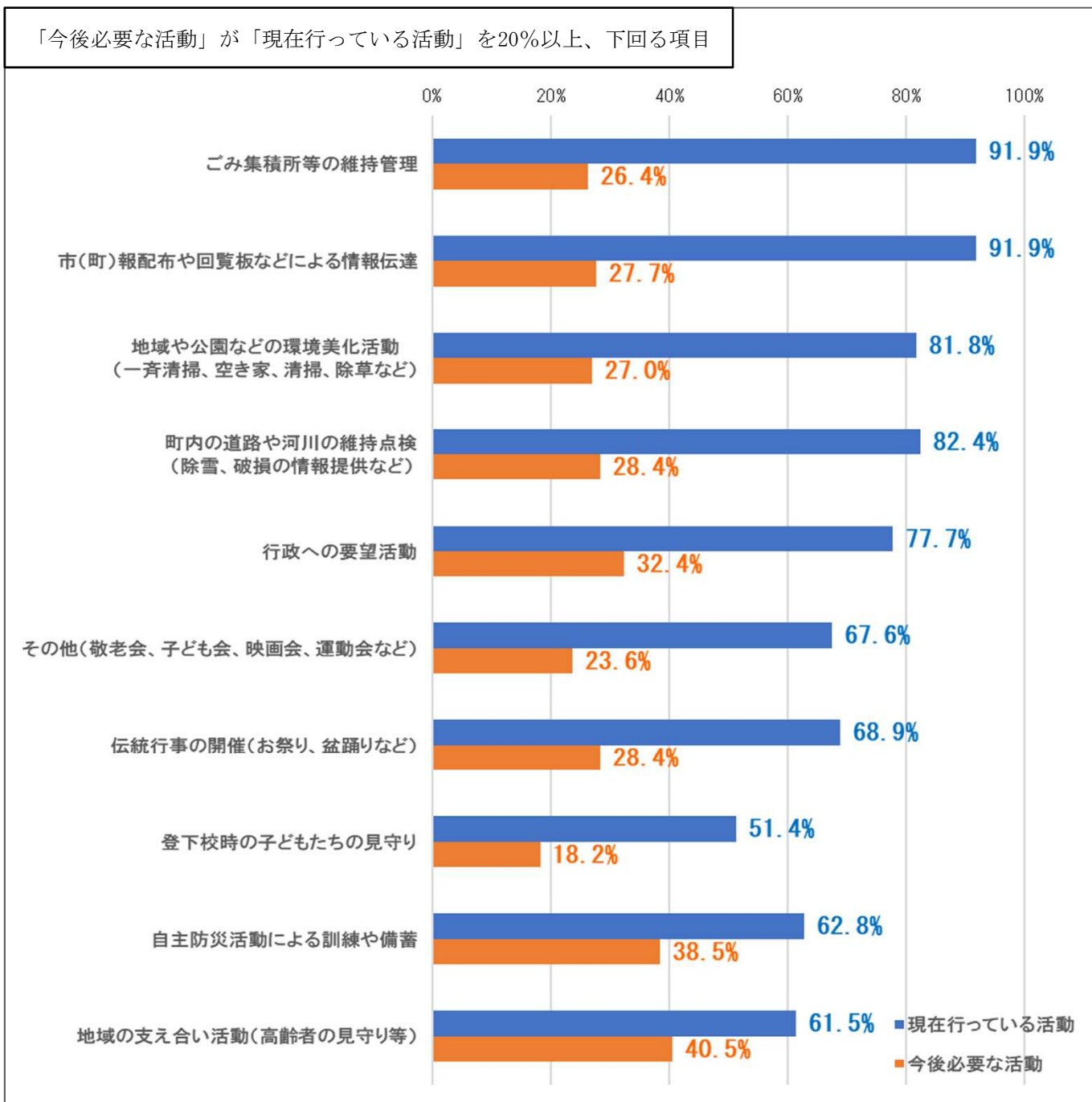
- 地域コミュニティと関係人口は、お互いに対して「興味関心はあるが、よくわからない」と感じていたり、様々なギャップがあることが伺える。徐々に関係性を作りながら、ギャップを埋める工夫をしていくことで、地域コミュニティに参画する関係人口は増えていく可能性があるかと推察される。

Ⅲ 考察 ～「地域コミュニティ現状調査」と「地域コミュニティ参画に係る意識調査」 2つの調査結果から抽出・分析～

1 地域コミュニティの現状

人口減少や少子高齢化の進展の影響により、地域コミュニティの役員のなり手不足や、地域活動への参加者の減少・固定化などを困りごとと感じている地域コミュニティ代表者が多い。

また、「現在行っている活動」と「今後必要な活動」間で必要性の認識度に大きな開きがある地域活動もある。

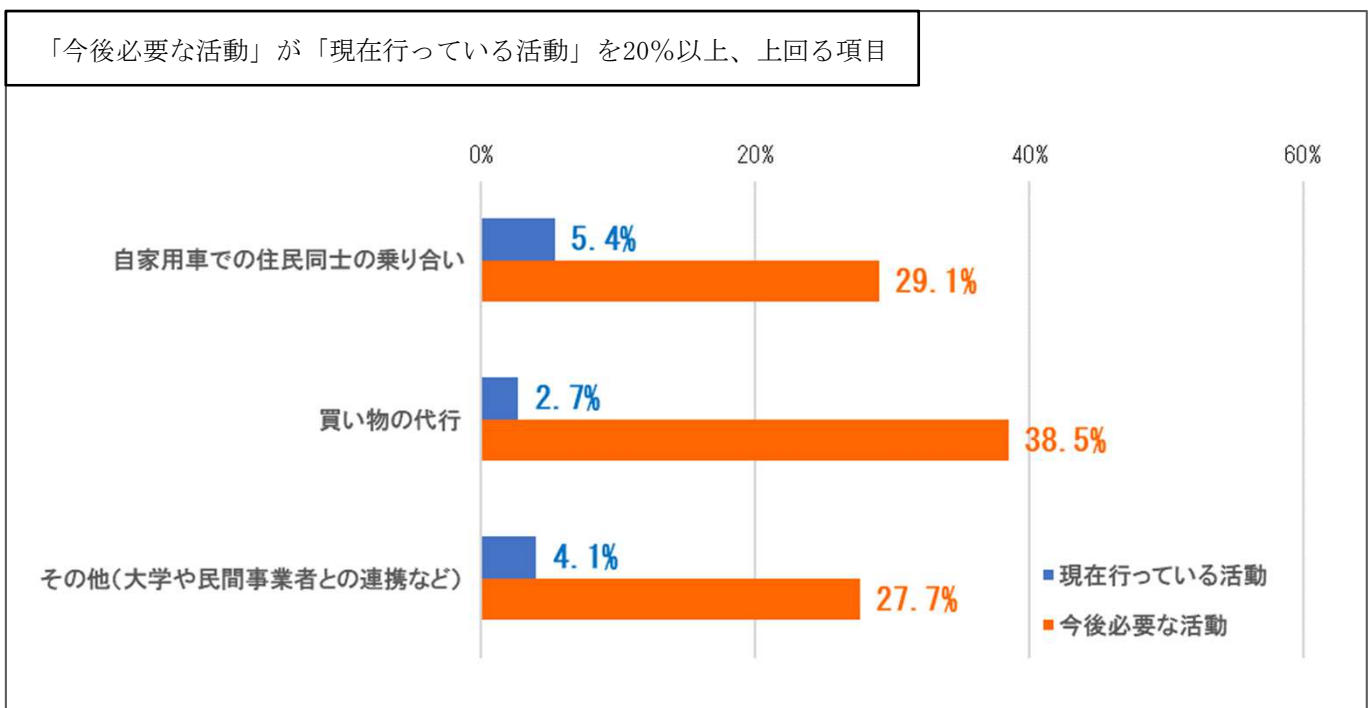


※地域コミュニティ現状調査結果から分析

敬老会・子ども会などのイベントや「伝統行事の開催（お祭り、盆踊りなど）」、「登下校時の子どもたちの見守り」などは、今後必要な活動とは考えていない地域コミュニティ代表者が多く、少子高齢化の影響がダイレクトに反映されていることが伺える。

また、「町内の道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）」や「ごみ集積所等の維持管理」、「地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）」、「行政への要望活動」、「市（町）報配布や回覧板などによる情報伝達」は、現在、8～9割の地域コミュニティにおいて行われているが、今後必要な活動と考える地域コミュニティ代表者は3割程度まで減少し、その必要性の認識に大きな開きがある。

反対に、「自家用車での住民同士の乗り合い」や「買い物の代行」、「大学や民間事業者との連携など」は、現在行っている地域コミュニティは少ないが、今後必要な活動として認識している地域コミュニティ代表者が多い。



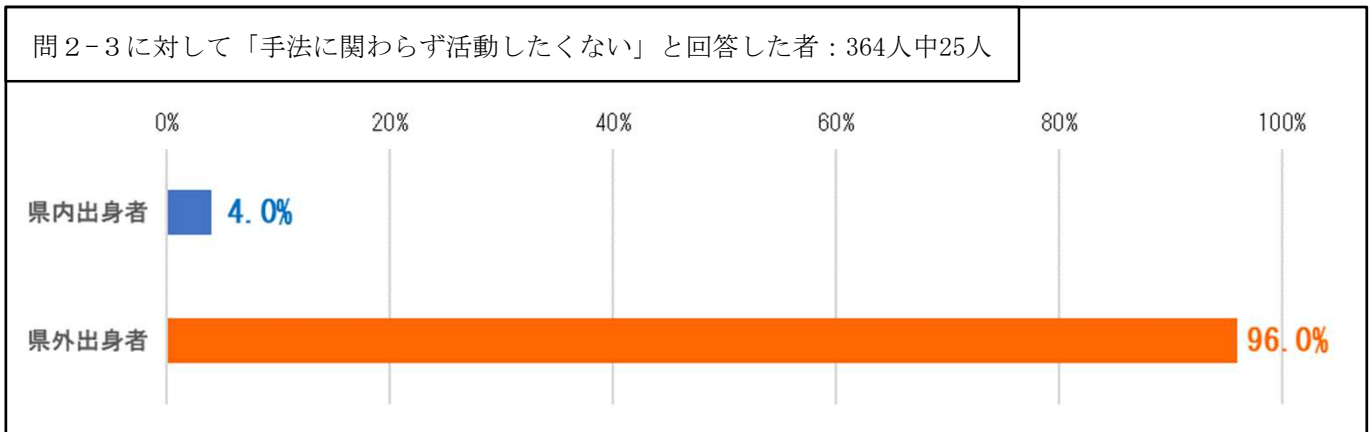
※地域コミュニティ現状調査結果から分析

地域コミュニティ活動の前例踏襲が過度に常態化してしまうと、活動の当初の目的を見失いがちになったり、役員・参加者双方の疲弊につながる可能性が考えられ、結果的に“現在行っているものの今後はあまり必要と感じない活動”という認識につながってしまう場合もあるのではないかと懸念されるため、地域住民のニーズや実態に応じて、地域コミュニティ活動の内容を変化させていくことも今後必要であると推察される。

2 関係人口の現状

地域コミュニティ参画に係る意識調査における「問2-3 地域で活動する場合、どのような手法を希望しますか？」の設問に対して「活動したくない」と回答した25人の内訳をみると、県内出身者1人（4.0%）に対して県外出身者24人（96.0%）と高い割合を占めている。

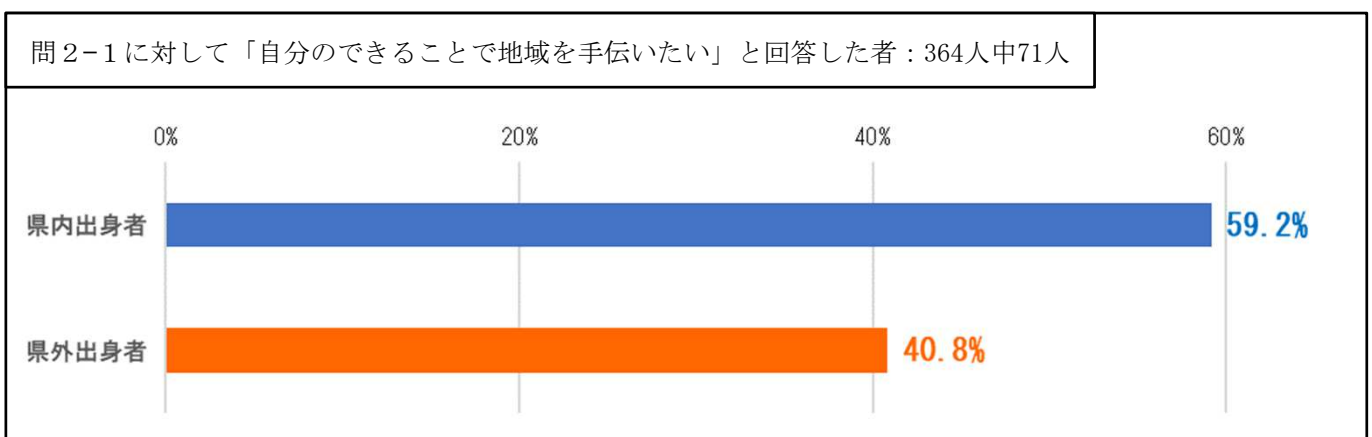
この結果から、県内出身者は県外出身者と比較して、本県における地域活動への参加に対して前向きと考えられる。



※地域コミュニティ参画に係る意識調査結果から分析

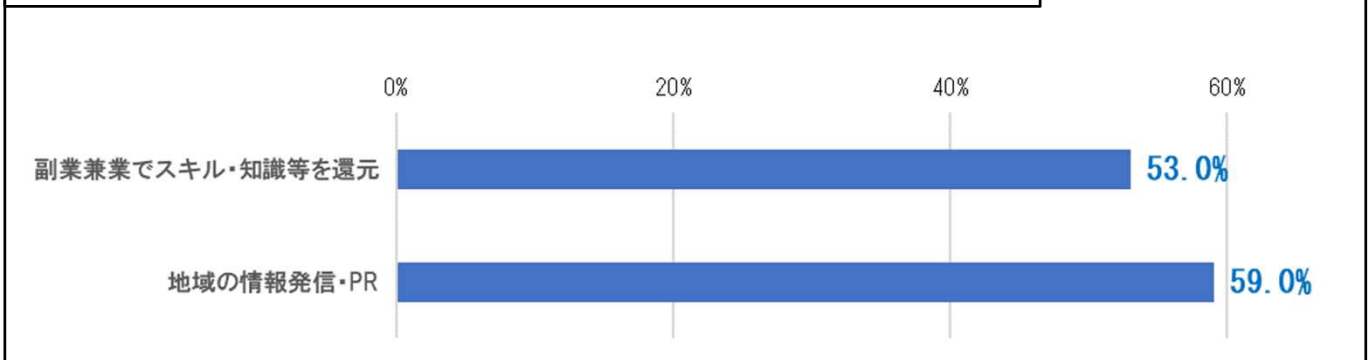
また、同調査の「問2-1 山形の地域にどんな関わりを持ちたいですか？」との設問に対して「自分ができることで地域を手伝いたい」と回答した71人の内訳をみると、県外出身者29人（40.8%）に対して県内出身者は42人（59.2%）と高い割合を占めている。

さらに、「問2-2 地域で活動する場合、どんな内容の活動をしたいですか？」との設問に対する県内出身者83人の回答状況をみると、「副業兼業でスキル・知識等を還元」と回答した人が44人（53.0%）、「地域の情報発信・PR」と回答した人が49人（59.0%）となっている。



※地域コミュニティ参画に係る意識調査結果から分析

問2-2 地域で活動する場合の活動の内容に対する県内出身者83人の回答状況

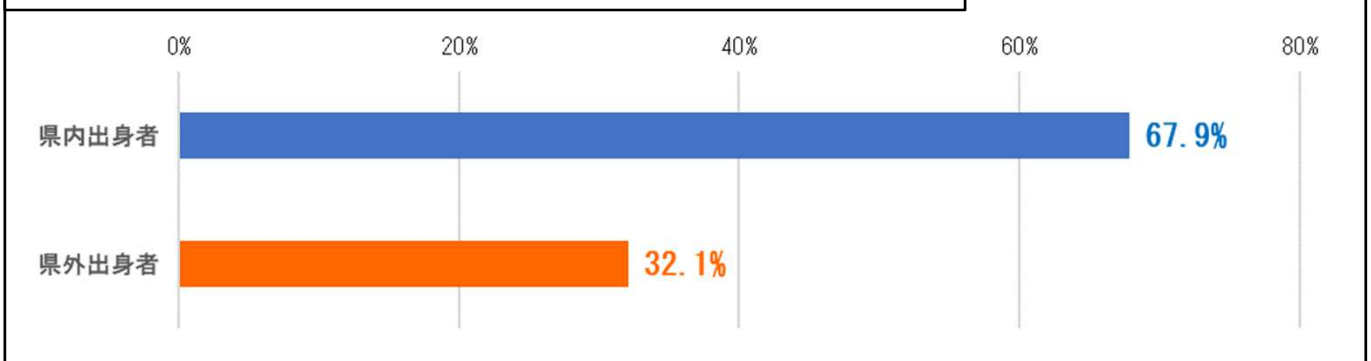


※地域コミュニティ参画に係る意識調査結果から分析

県内出身者はもとより、山形県の地域のことを知っており、山形県内の地域と結び付きを持ったことのある人は山形県での地域活動に意欲が高く、自身の強みを活かした活動をしたいと考える傾向が強いのではないかと推察される。

また、「問2-1 山形の地域にどんな関わりを持ちたいですか?」との設問に対して「移住（UIJターン）したい」と回答した28人の内訳をみると、県内出身者は19人（67.9%）、県外出身者は9人（32.1%）となっており、県内出身者は高い割合で移住（UIJターン）したいと考えている。

問2-1 に対して「移住（UIJターン）したい」と回答した者：364人中28人



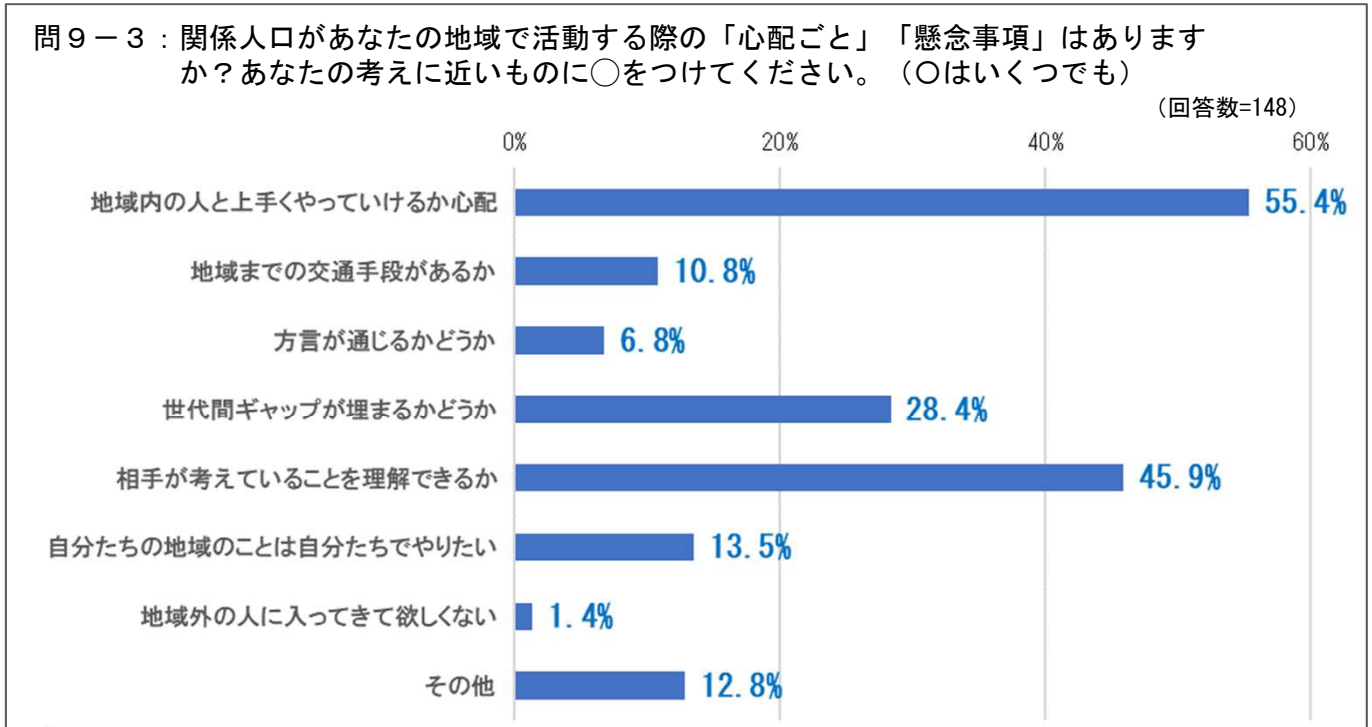
※地域コミュニティ参画に係る意識調査結果から分析

以上のことを踏まえ、山形の魅力に触れたり、結び付きを持つこと、つまり、関係人口として地域に関わる機会を持つことは、山形県への移住に対する興味を持つ大きなきっかけとなり、さらには将来的な移住へとつながる可能性があることが推察される。

3 地域コミュニティと関係人口のマッチング

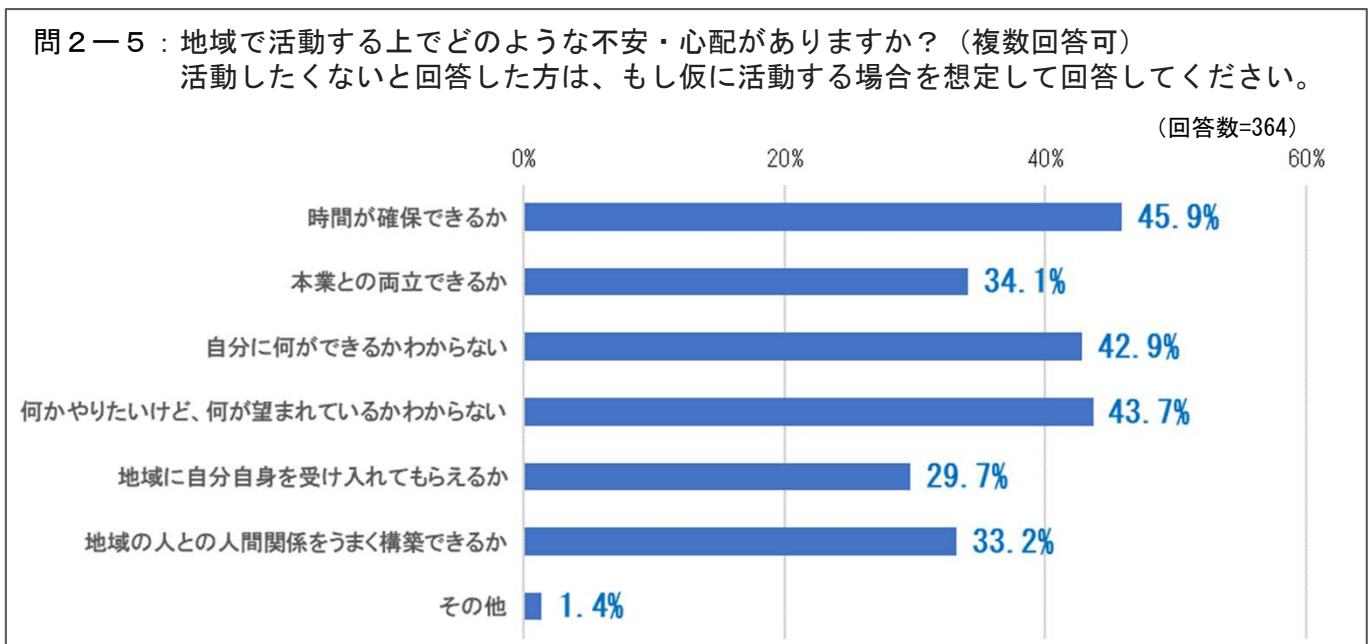
地域コミュニティで関係人口が活動することについては、地域コミュニティ側と関係人口側それぞれが不安や懸念を持っており、両者をマッチングするには、その不安や懸念を解消し、ギャップを埋める工夫が必要である。

「地域コミュニティの不安・懸念」



※地域コミュニティ現状調査結果より一部抜粋

「関係人口の不安・懸念」



※地域コミュニティ参画に係る意識調査結果より一部抜粋

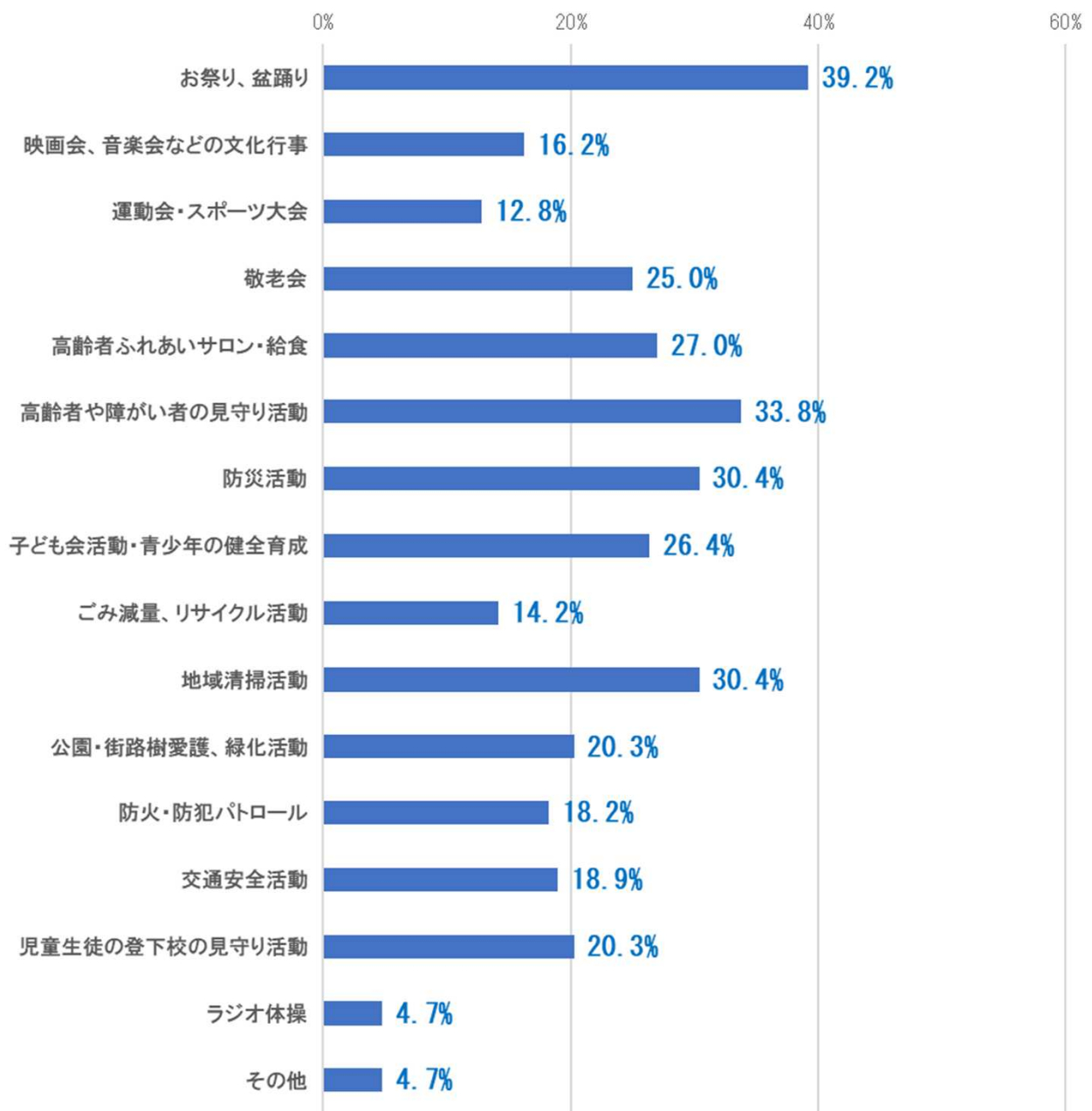
また、地域コミュニティが関係人口に参画してほしい地域活動と関係人口が参画したい地域活動のそれぞれの意見を見てみると、「お祭り」、「美化活動」、「情報発信」などお互いのニーズが合致する活動があることがわかる。

地域コミュニティと関係人口それぞれが希望する活動をきっかけにすることで、両者がマッチングする可能性が高くなると思われる。

「地域コミュニティが関係人口に参画してほしい地域活動」

問11：関係人口が主体的、継続的に参画してほしい地域活動があれば教えてください。
 (〇はいくつでも)

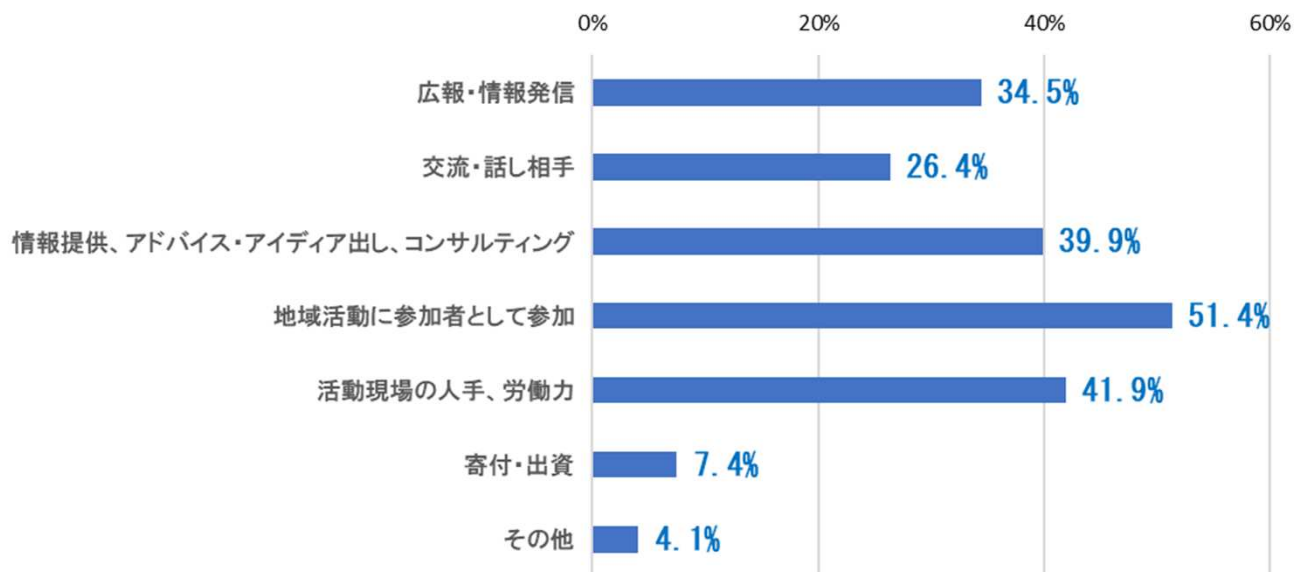
(回答数=148)



※地域コミュニティ現状調査結果より一部抜粋

問12：地域外の方がどのような形で参画すれば、地域活動が持続・活発化したいと思いますか。（〇はいくつでも）

（回答数=148）

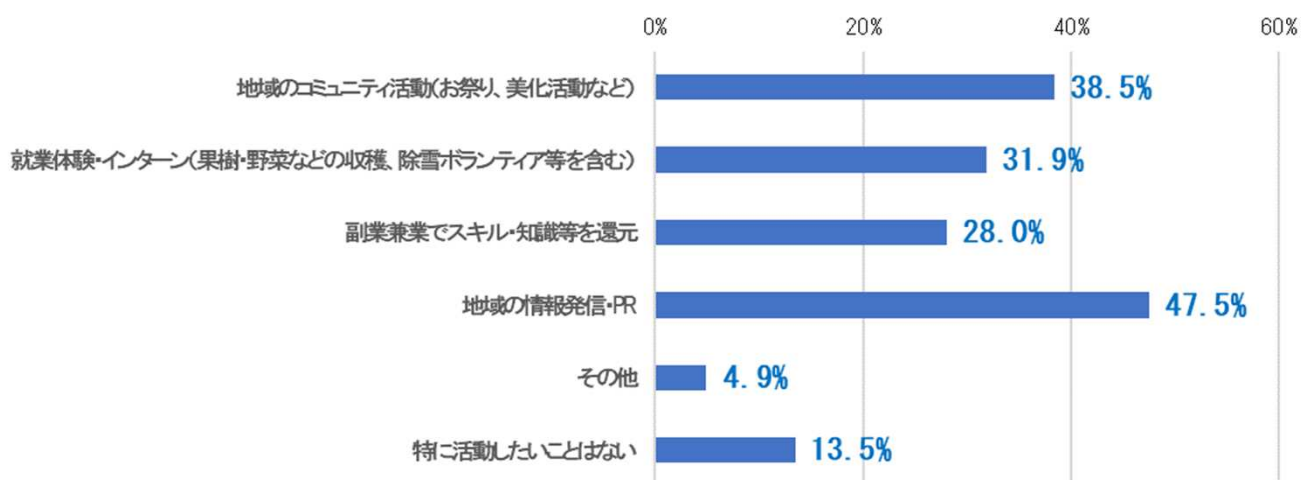


※地域コミュニティ現状調査結果より一部抜粋

「関係人口が参画したい地域活動」

問2-2：地域で活動する場合、どんな内容の活動をしたいですか？（複数回答可）

（回答数=364）



※地域コミュニティ参画に係る意識調査結果より一部抜粋

「地域コミュニティ参画に係る意識調査」だけでは拾いきれない関係人口の細やかな意見を聴取するために開催した地域コミュニティと関係人口の交流イベントでは、課題の解決やアイデアを求めている地域コミュニティの代表者と首都圏在住の参加者（関係人口）が意見交換を行ったが、それぞれの不安・懸念や興味関心を理解することができる『コーディネーター』が間に入り、双方の意識や考え方のギャップを埋める工夫を丁寧に行いながら進めることで、スムーズなコミュニケーションが図られ、地域コミュニティと関係人口のつながりを創出することができたと考えられる。

地域コミュニティへのコーディネート

【イベント前日まで（事前情報）】

- ・ 事業やイベントの趣旨の説明
- ・ 困りごとなどについてヒアリング
- ・ 参加者はどんな人が参加しているのか、参加の動機などの説明

【イベント当日】

- ・ 話しやすいように話題を振る

【イベント終了後】

- ・ 参加者の声・意見などをフィードバック

関係人口へのコーディネート

【イベント企画】

- ・ 興味関心がありそうなイベントを企画

【イベント当日】

- ・ オンラインで参加した地域コミュニティ代表者の人柄や活動の背景などを丁寧に説明

【イベント終了後】

- ・ 地域コミュニティにフィードバックした内容をレポートとして伝える

交流イベント後に、地域コミュニティの代表者からは「参加者から出たアイデアを実行していきたい」という前向きな感想をいただいております、地域コミュニティが参加者のアイデアをスムーズに受け入れることができたのも、双方を良く知る「コーディネーター」の調整の力が大きい。地域コミュニティと関係人口を“つなぐ人材”としての「コーディネーター」の存在は今後の地域づくりの重要なカギを握っているものと推察される。



山形市やよい町内会 会長 門脇 徹 氏

- 若い人の意見を直接聞いてよかった。若い人はメリットがなければ町内会に参加しないとといった意見などが参考になった。
- もらった意見を参考にして、自分たちに合わせた形でやれそうなことからやってみよう。



西山形の酒を造る会 副会長 柏倉 昭裕 氏（明源寺住職）

- すごく参考になった。
- 今回、ワークショップを通じて、様々な御意見をいただき、今の自分達に何が必要なのか精査したい。とりあえず、皆さまに共通して言われた酒を造る会の「SNSアカウントの作成」を最優先にしたい。講師の伊藤一之先生の「何をやりたいのかゴールを決めて、その熱意で、周囲を溶かして行く」方法でやって行きたいと思う。

IV 総括

【地域コミュニティの活動】

- 昨今のコロナ禍や人口減少、少子高齢化、若者の減少、役員の多忙等を背景に、地域コミュニティが従来と同様の活動や役割を果たしにくくなってきていることが伺える。地域コミュニティの活動や役割の見直し、縮小を模索していく時期が到来しているのではないだろうか。
- 地域コミュニティのあり方については、「地域のことは地域で」というスタンスではなく、近隣や他県における地域コミュニティの活動の情報収集を行ったり、関係人口等との連携など、地域外の人とも共に考えていく必要があると思われる。

【地域コミュニティと関係人口とのマッチングは“移住の数歩前の状態”】

- 県内出身者や山形県で働いたことのある人など山形の魅力に触れたことのある首都圏在住者は「移住(U I Jターン) したい」と考えている人が多い傾向がある。
- 関係人口が一足飛びに移住(U I Jターン) に結び付くことは難しいものの、関係人口として地域コミュニティと関わりを持つことが山形県への移住に興味を持つきっかけとなる可能性は大きい。関係人口が地域コミュニティと初めはゆるくつながり、次第に関係性を深めていくことで実際の移住に結び付いていくという流れは十分に想定されることから、地域コミュニティと関係人口のマッチングは、移住(U I Jターン) への「数歩前の状態」として捉えることができる。両者のマッチングが将来の移住に結びつくことも視野に入れて、地域コミュニティと関係人口のつながりを創出していくことが重要である。

【コーディネーターの必要性】

- 地域コミュニティと関係人口はそれぞれお互いに対して興味関心を持っている一方、同時に不安や懸念も持っている。お互いの不安や懸念を解消し、意識や考え方のギャップを埋めていく必要がある。
- 地域コミュニティと関係人口がつながりを持つ場合は、双方がお互いを尊重する気持ちを持ち、自己開示をして徐々に関係性を構築していくことが重要である。
- 地域コミュニティと関係人口が持つ不安や懸念のギャップ解消のためには、地域コミュニティと関係人口のそれぞれの立場や特性、価値観などを理解することができ、お互いをつなげることができる仲人のような『コーディネーター』の存在が必要であると考えられる。『仲人的コーディネーター』が地域コミュニティと関係人口を“つなぐ人材”として、徐々に関係性を作りながら、お互いがwin-winになるようにギャップを埋める工夫を行うことで地域コミュニティに参画する関係人口の増加に結び付くのではないかと推察される。

V 参考資料

- 1 地域コミュニティ現状調査アンケート調査票
- 2 地域コミュニティ現状調査 調査対象者
- 3 地域コミュニティ参画に係る意識調査アンケート調査票

1 地域コミュニティ現状調査アンケート調査票

趣旨説明

人口減少に伴い、住民同士の支え合いなど、これまで地域のコミュニティが果たしてきた**機能の低下**が懸念されます。



村山総合支庁では、皆さんの地域のコミュニティにおける課題などをご回答いただくことで、人口減少下における地域コミュニティの持続可能性について、分析を行います。



地域コミュニティを持続可能にする方法の1つ
「**関係人口**」

関係人口とは、その地域に住んでいなくても、興味関心を持って、その地域と継続的にかかわり続ける人を意味します。

地域コミュニティの担い手の一つとして、注目されています。

【関係人口】の事例



定住人口

地域に住んでいる方

関係人口



関係人口

地域に興味関心を持ち
関わりたいと思っている方



交流人口

旅行やイベントの来訪者



医療福祉

事例：広島県
東広島市「介護施設」
学生が介護施設でバイトをする代わりに住めるシェアハウス（複合施設）運営



地域文化

事例：青森県弘前市
「ねぶたまつり」
主に20～40代の県外在住者を対象として、運行団体と共に準備や当日運行を手伝い交流

県外に住む若者などが地域活動に参加している事例が、山形県内でもあります。



情報

事例：山形県新庄市「地域の情報発信」
カフェ・まちづくりイベント等を行う団体で、地元出身の県外在住大学生が記事を書く広報活動を行う（オンラインが中心）。



農業

事例：山形県村山市「野菜の収穫」

スイカ、キャベツなどの農作物を作る農家の収穫を関東在住の若者が手伝う（報酬あり）。



上記を踏まえて、アンケートへのご協力を、何卒よろしくお願い致します。

まずはじめにこちらをご覧ください。

・はじめに

本アンケートでは、村山地方の「地域コミュニティ」の現状について、皆様のご意見を伺います。地域コミュニティという言葉は非常に広い意味を持ちますので、下記の6つのグループに整理します。

地域コミュニティ



地域内交流

- ・ 高齢世帯の孤独化
- ・ 育児世帯へのフォロー
- ・ 隣近所とのコミュニケーション



防災・防犯

- ・ 避難施設が古い
- ・ 消防団の高齢化、団員不足
- ・ 災害無線が聞き取りにくい



地域文化

- ・ 行事の担い手が高齢化
- ・ 若年層が興味を示さない
- ・ 正しい行事作法が途絶えた



医療・福祉

- ・ 病院や買い物に行く手段がない
- ・ 介護を受けたくても事業者がない



生活環境

- ・ 道路や河川の点検をする人がいない
- ・ ごみ集積所の管理をする人がいない
- ・ 公園掃除の参加者が少ない
- ・ 近くに店がない



行政・情報

- ・ 紙ベースで情報が遅い
- ・ 町内会では対応できない問題がある

上記は、一般的に「地域コミュニティの課題」として挙げられている内容を、あくまで例として記載しています。

上記の例を参考に、あなたが住む地域のコミュニティについて、現状の取り組みや、課題になっていることについて、お答えください。

はじめに、ご回答者様の所属についてお伺いします。

所属する町内会・自治会の名称	
代表者（回答者）氏名	
加入世帯数又は人数	世帯／人
加入率	%

これ以降の設問は、あなた自身がお住まいの地域（地区）についてお答えください。

問1：あなたの地域の「地域活動への参加状況」はいかがでしょうか。（○は1つ）

1	全体的に参加者が増えてきている
2	どちらかといえば参加者が増えてきている
3	ほとんど変わらない
4	どちらかといえば参加者が減ってきている
5	全体的に参加者が減ってきている

問2：地域活動を行う上で、お困りになっていることはありますか。（○はいくつでも）

1	役員のなり手がいない
2	参加者の減少・固定化
3	事務処理ができる人がいない
4	パソコンができる人がいない
5	予算が足りない
6	会合や催しを行える場所が少ない
7	活動に対する住民の理解が得られない
8	活動がマンネリ化している
9	住民の意見や要望の把握が難しい
10	地域コミュニティ組織（町内会・自治会）加入率の低下
11	特に困っていることはない
12	その他（ ）

あなたの住む地域の「地域コミュニティ」についてお聞きします。
別紙「説明書」をご覧ください。

問3：あなたの住む地域の「地域内交流」についてお答えください。



地域内交流

<課題例>

- ・高齢世帯の孤独化
- ・育児世帯へのフォロー
- ・隣近所とのコミュニケーション

問3-1 現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（〇はいくつでも）

項目	現在行っている活動	今後必要な活動
登下校時の子どもたちの見守り	1	1
住民同士の助け合いのきっかけづくり	2	2
地域の支え合い活動（高齢者の見守り等）	3	3
その他（敬老会、子ども会、映画会、運動会など）	4	4
特になし	5	5

問3-2 課題と今後の取り組みについて、ご自由にお答えください。

問4：あなたの住む地域の「防災・防犯」についてお答えください。



防災・防犯

<課題例>

- ・避難施設が古い
- ・消防団の高齢化、団員不足
- ・災害無線が聞き取りにくい

問4-1 現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（〇はいくつでも）

項目	現在行っている活動	今後必要な活動
防火・防犯パトロール	1	1
自主防災活動による訓練や備蓄	2	2
災害発生時の助け合い	3	3
その他（消防団、登下校の見守りなど）	4	4
特になし	5	5

問4-2 課題と今後の取り組みについてご自由にお答えください。

問5：あなたの住む地域の「地域文化」についてお答えください。



地域文化

<課題例>

- ・行事の担い手が高齢化
- ・若年層が興味を示さない
- ・正しい行事作法が途絶えた

問5-1 現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（〇はいくつでも）

項目	現在行っている活動	今後必要な活動
伝統行事の開催（お祭り、盆踊りなど）	1	1
地域の特性を生かした地域づくり活動（魅力発信、文化祭、研修など）	2	2
その他（大学や民間事業者との連携など）	3	3
特になし	4	4

問5-2 課題と今後の取り組みについて、ご自由にお答えください。

問6：あなたの住む地域の「医療・福祉」についてお答えください。



医療・福祉

<課題例>

- ・病院や買い物に行く手段がない
- ・介護を受けたくても事業者がない
- ・近くに店がない

問6-1 現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（〇はいくつでも）

項目	現在行っている活動	今後必要な活動
自家用車での住民同士の乗り合い	1	1
買い物の代行	2	2
その他（デマンド型タクシーの運行など）	3	3
特になし	4	4

問6-2 課題と今後の取り組みについて、ご自由にお答えください。

問7：あなたの住む地域の「生活環境」についてお答えください。



生活環境

<課題例>

- ・道路や河川の点検をする人がいない
- ・ごみ集積所の管理をする人がいない
- ・公園掃除の参加者が少ない

問7-1 現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（〇はいくつでも）

項目	現在行っている活動	今後必要な活動
町内道路や河川の維持点検（除雪、破損の情報提供など）	1	1
ごみ集積所等の維持管理	2	2
地域や公園などの環境美化活動（一斉清掃、空き家、清掃、除草など）	3	3
その他（犬猫の問題、不法投棄など）	4	4
特になし	5	5

問7-2 課題と今後の取り組みについて、ご自由にお答えください。

問8：あなたの住む地域の「行政・情報」についてお答えください。



行政・情報

<課題例>

- ・地域の要望を伝えたくても窓口がわからない
- ・行政からの情報を得る手段がない
- ・などなど

問8-1 現在行っている活動と今後（新たに若しくは継続して）必要な活動をお答えください。（〇はいくつでも）

項目	現在行っている活動	今後必要な活動
行政への要望活動	1	1
市（町）報配布や回覧板などによる情報伝達	2	2
その他（他地域の施設研修など）	3	3
特になし	4	4

問8-2 課題と今後の取り組みについて、ご自由にお答えください。

ここからは、「関係人口」と地域コミュニティについてお聞きします。
別紙「アンケートの目的」の関係人口の説明をご覧ください、お答えください。

問9：「地域コミュニティ」と「関係人口」についてお答えください。

問9-1 関係人口（県外在住の個人や地域活動に協力しているボランティア団体やNPO・企業等）があなたの地域の活動運営に主体的、継続的に参画することについて、どう思いますか。（○はひとつ）

大歓迎する	1
参画してほしいが、気になる点もある	2
参画してほしくない	3
関係人口がよくわからない	4





問9-2 上記のように記入した理由を詳しく教えてください。

問9-3 関係人口があなたの地域で活動する際の「心配ごと」「懸念事項」はありますか？あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○はいくつでも）

地域内の人と上手くやっていけるか心配	1
地域までの交通手段があるか	2
方言が通じるかどうか	3
世代間ギャップが埋まるかどうか	4
相手が考えていることを理解できるか	5
自分たちの地域のことは自分たちでやりたい	6
地域外の人に入ってきて欲しくない	7
その他	8

問9-4 その他と回答した方は、具体的な内容について教えてください。

問10：あなたの住む地域の課題について、関係人口の力によって解決できそうなものはありますか。

項目	有無	具体的なご意見
地域内交流  <ul style="list-style-type: none"> ・高齢世帯の孤独化 ・育児世帯へのフォロー ・隣近所とのコミュニケーション 	有 ・ 無	
防災・防犯  <ul style="list-style-type: none"> ・避難施設が古い ・消防団の高齢化、団員不足 ・災害無線が聞き取りにくい 	有 ・ 無	
地域文化  <ul style="list-style-type: none"> ・行事の担い手が高齢化 ・若年層が興味を示さない ・正しい行事作法が途絶えた 	有 ・ 無	
医療・福祉  <ul style="list-style-type: none"> ・病院や買い物に行く手段がない ・介護を受けたくても事業者がいない ・近くに店がない 	有 ・ 無	
生活環境  <ul style="list-style-type: none"> ・道路や河川の点検をする人がいない ・ごみ集積所の管理をする人がいない ・公園掃除の参加者が少ない 	有 ・ 無	
行政・情報  <ul style="list-style-type: none"> ・紙ベースで情報が遅い ・町内会では対応できない問題がある 	有 ・ 無	

問11：関係人口が主体的、継続的に参画してほしい地域活動があれば教えてください。
(〇はいくつでも)

お祭り、盆踊り	1
映画会、音楽会などの文化行事	2
運動会・スポーツ大会	3
敬老会	4
高齢者ふれあいサロン・給食	5
高齢者や障がい者の見守り活動	6
防災活動	7
子ども会活動・青少年の健全育成	8
ごみ減量、リサイクル活動	9
地域清掃活動	10
公園・街路樹愛護、緑化活動	11
防火・防犯パトロール	12
交通安全活動	13
児童生徒の登下校の見守り活動	14
ラジオ体操	15
その他 ()	16

問12：地域外の方がどのような形で参画すれば、地域活動が持続・活発化すると思いますか。
(〇はいくつでも)

広報・情報発信	1
交流、話し相手	2
情報提供、アドバイス・アイデア出し、コンサルティング	3
地域活動に参加者として参加	4
活動現場の人手、労働力	5
寄付・出資	6
その他 ()	7

アンケートにご協力いただき、 ありがとうございました。

アンケートのご回答いただいた内容について、更に詳しくお伺いしたい場合、お電話等を差し上げててもよろしいでしょうか。
ご協力頂ける場合は「協力できる」に○を付けていただいたのち、連絡先欄の記入をお願いいたします。

回答内容の確認のため電話等を差し上げててもよろしいですか？

協力できる	1
協力できない	2

**「協力できる」と回答いただいた方のみ、
下記の連絡先欄をご記入ください。**

お名前	
希望する連絡方法 (希望する連絡手段を 丸囲みしてください)	①電話 ②E-mail ③オンライン (Zoom)
電話番号	
E-mail (オンラインを希望 される場合も記入願います)	
連絡を差し上げる際に、 連絡時間帯等のご希望が ありましたら記入願います	

(注) お電話等を差し上げる場合は、アンケート事務局の株式会社キャリアクリエイト
田中 (電話:070-2039-9196/E-mail:m.tanaka@career-create.co.jp) から差し上げます。
念のため、このページをコピー等して保管いただけますようお願いいたします。

アンケートは以上です。
いただいた貴重なご意見は、今後の施策に活かしてまいります。
ご協力いただき、まことにありがとうございました。

2 地域コミュニティ現状調査 調査対象者

【山形市】

第一地区
第二地区
第三地区
第四地区
第五地区
第六地区
第七地区
第八地区
第九地区
第十地区
鈴川地区
千歳地区
飯塚地区
榎沢地区
出羽地区
金井地区
楯山地区
滝山地区
東沢地区
高瀬地区
南沼原地区
大郷地区
明治地区
南山形地区
大曾根地区
山寺地区
蔵王地区
西山形地区
村木沢地区
本沢地区

【上山市】

上十日町地区
中十日町地区
下十日町地区
上新丁地区
下新丁地区
北町地区
栄町地区
八日町1地区
八日町2地区
美咲町地区
東町地区
矢来1地区
矢来2地区
矢来3地区
矢来4地区
石堂地区
沢丁地区
新湯地区
荒町地区
八幡丁地区
仲丁地区
湯町地区
湯町新道地区
軽井沢地区
御井戸丁地区
新町地区
四ツ谷地区
大石地区
旭町地区
弁天地区
南町地区
長清水2地区
三本松地区
石崎1地区
石崎2地区
河崎地区
松山地区
西山地区
久保手地区
金瓶地区
朝日台地区
金生1地区
金生2地区
金生3地区
金生4地区
金生5地区
高松地区
石曾根地区
川口地区
藤吾地区
阿弥陀地地区
小穴地区
細谷地区
関根地区
相生地区
三上地区
皆沢地区
樽下地区
牧野地区
原口地区
須田板地区
小笹地区
久保川地区
大門地区
菖蒲地区
宮脇地区
下生居地区
中生居地区
上生居地区
糸目地区
仙石地区

泉川地区
金谷地区
足ノ口地区
甲石地区
高野地区
薄沢地区
永野地区
蔵王地区
権現堂地区
小倉地区
棚木地区
坊平地区
中山第1地区
中山第2地区
須刈田地区
狸森地区
元屋敷地区
菅地区
前丸森地区
境地区
中ノ森地区

【天童市】

市立天童南部公民館
市立天童中部公民館
市立天童北部公民館
市立成生公民館
市立蔵増公民館
市立寺津公民館
市立津山公民館
市立田麦野公民館
市立山口公民館
市立高揃公民館
市立長岡公民館
市立干布公民館
市立荒谷公民館

【山辺町】

中央ブロック協議会
大門ブロック協議会
南部ブロック協議会
北部ブロック協議会
緑ヶ丘ブロック協議会
大寺ブロック協議会
中地区ブロック協議会
作谷沢地域振興協議会
相模ブロック協議会
近江自治会

【中山町】

達磨寺 1 地区
達磨寺 2 地区
達磨寺 3 地区
達磨寺 4 地区
向新田地区
新田町 1 地区
新田町 2 地区
新田町 3 地区
上町地区
新町地区
元町地区
中町地区
柳町地区
旭町 1 地区
旭町 2 地区
川端地区
下川地区
桜町 1 地区
桜町 2 地区
北小路地区
西小路地区
梅ヶ枝町 1 地区
梅ヶ枝町 2 地区
梅ヶ枝町 3 地区
梅ヶ枝町 4 地区
梅ヶ枝町 5 地区
梅ヶ枝町 6 地区
西町地区
南小路地区
三軒屋地区
落合地区
文新田 1 地区
文新田 2 地区
いずみ 1 地区
いずみ 2 地区
あおば 1 地区
あおば 3 地区

金沢 1 地区
金沢 2 地区
金沢 3 地区
金沢 4 地区
金沢 5 地区
柳沢 1 地区
柳沢 2 地区
柳沢 3 地区
柳沢 4 地区
柳沢 5 地区
土橋 1 地区
土橋 2 地区
土橋 3 地区
土橋 4 地区
土橋 5 地区
土橋 6 地区
岡 1 地区
岡 2 地区
岡 3 地区
岡 4 地区
岡 5 地区
小塩 1 地区
小塩 2 地区
小塩 3 地区

3 地域コミュニティ参画に係る意識調査アンケート調査票

県外から山形県に関わることについてのアンケート

本アンケートでは、県外に在住する方に、山形県村山地方と関わることについて、皆さんのご意見を伺います。

主催：山形県村山総合支庁（業務委託先：株式会社山形アドビューロ）

回答期間：2023年11月30日（木）～2024年1月14日（日）

アンケート回答頂いた方は、山形県の美味しいもの詰め合わせセットが当たるキャンペーンに参加頂けます。ぜひ、アンケート回答・キャンペーンご応募ください。

※お1人1回のみのお返答をお願いします。

1・はじめに、あなた自身について教えてください。

1-1・山形県との関わり

- 出身地である（山形県村山地方）
- 出身地である（山形県置賜地方・最上地方・庄内地方）
- 祖父母・親戚がいる
- 学校（高校・大学・自動車学校など）に通っていた
- 出身地ではないが山形で働いたことがある
- 旅行や出張で訪れたことがある
- その他: _____

1-2・年代

- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代以上

1-3・性別

- 男性
- 女性
- 無回答

2・「山形県との関わり」について、あなた自身のお考えを教えてください

2-1・山形の地域にどんな関わりを持ちたいですか？

- 移住（UJターン）したい
- 自分のできることで地域を手伝いたい
- 旅行で訪れたい
- ふるさと納税・クラウドファンディング・物品購入で応援したい
- 関わりたくない
- その他

2-2・地域で活動する場合、どんな内容の活動をしたいですか？（複数回答可）

- 地域のコミュニティ活動（お祭り、美化活動など）
- 就業体験・インターン（果樹・野菜などの収穫、除雪ボランティア等を含む）
- 副業兼業でスキル・知識等を還元
- 地域の情報発信・PR
- その他
- 特に活動したいことはない

2-3・地域で活動する場合、どのような手法を希望しますか？（複数回答可）

- 現地での活動
- 移動しなくてもオンラインで完結する
- 帰省したついでにできる
- 家族・友人と一緒に活動できる
- その他
- 手法に関わらず活動したくない

2-4・地域で活動する上で大事なことは何ですか？2つまで選んでください。
活動したくないと回答した方は、もし仮に活動する場合を想定して回答してください。

- 自分の強みが活かせる
- スキルがなくてもできる
- 興味関心のあることに携われる
- 交通費補助・賃金発生など、「お金」がもらえる
- 「ありがとう」「助かった」と思ってもらえる・言ってもらえる
- モノがもらえる
- その他

2-5・地域で活動する上でどのような不安・心配がありますか？（複数回答可）
活動したくないと回答した方は、もし仮に活動する場合を想定して回答してください。

- 時間が確保できるか
- 本業との両立できるか
- 自分に何ができるかわからない
- 何かやりたいけど、何が望まれているかわからない
- 地域に自分自身を受け入れてもらえるか
- 地域の人との人間関係をうまく構築できるか
- その他

むらやま若者みらい創造モデル事業 報告書

令和6年2月

発行 山形県村山総合支庁総務企画部総務課連携支援室
〒990-2492 山形市鉄砲町二丁目19-68
TEL: 023-621-8354 FAX: 023-621-8363